

# ひっとプラン港北

## 第5期港北区地域福祉保健計画

計画期間 令和8年度(2026)～令和12年度(2030)



## ご挨拶

このたび、第5期港北区地域福祉保健計画「ひっとプラン港北」を策定いたしました。

港北区では、平成18年度に第1期計画を策定して以来、「誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせるまち港北」の実現を目指し、区民の皆様とともに歩みを進めてまいりました。第2期以降は「ひっとプラン港北」という愛称のもと、「ひろがる」「つながる」「とどく」の3つの柱を掲げ、地域の力を活かした福祉保健活動を推進してきました。

この間、地域では多様な活動が展開され、居場所づくりや世代間交流、支え合いの仕組みが着実に広がってきました。地域の皆様の工夫と努力により、つながりを絶やさない取り組みが続けられてきたことに、深く敬意を表します。

一方で、人口の高齢化や地域活動の担い手不足、さらに地域のつながりの希薄化など、地域が抱える課題も複雑化・多様化しています。こうした課題に対応するためには、制度によるフォーマルな支援だけでなく、地域住民同士の支え合いによるインフォーマルな支援がますます重要となります。「ひっとプラン港北」は、後者に軸足を置いた計画であり、福祉社会の土台となるものと考えます。

第5期計画では、これまでの取り組みを継承しつつ、災害への備えを通じた地域のつながりづくりや既存のつながりを大切にしながら、対象者に合わせてデジタル技術を活用していくことなど、時代の変化に即した内容も記載しました。区民・団体・事業者・関係機関の皆様と行政が連携し、誰もが自分らしく安心して暮らせる「ふるさと港北」の実現に向けて、共に歩んでまいりましょう。

本計画の策定にあたり、ご協力いただいた策定・推進委員会の皆様をはじめ、地区別計画策定に携わっていただいた皆様、検討部会に参加いただいた皆様、意見募集にご参加いただいた区民の皆様にご心より感謝申し上げます。また、検討部会や意見募集では、これからの港北区の未来を担っていく子どもたちからも御意見をいただきました。この場を借りてあらためて御礼申し上げます。

今後とも、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



港北区長 竹下 幸紀

これまで住民の皆さまとともに4期、20年にわたり推進してまいりました「ひっとプラン港北」も、おかげさまで令和8年度からの第5期計画を策定することができました。

策定にあたり、策定・推進委員会や検討部会の皆様、素案の意見募集にご協力いただいた皆様、また、各地区の地区別計画の策定にご尽力をいただきました皆様にご心より感謝申し上げます。

港北区では、住民による様々な福祉保健活動が活発に行われています。

子育てサロン、こども食堂・地域食堂等の地域の居場所、健康や趣味の教室など住民同士のつながりづくりや、地区ボランティアセンター、家事援助グループ、買い物支援といった、住民の困りごとを地域で支えあう活動が区内各所で取り組まれています。

このように活動が活発な港北区ですが、計画の振り返りにおいて、他の市区町村と同様に高齢化や単身世帯の増加、生活困窮や社会的孤立など、様々な生活課題が生じ、複雑化・多様化していること、そして地域活動の担い手不足が起きているとの声が寄せられました。

こういった情勢を踏まえ、5期計画の推進にあたって大切なことは、私たち住民による主体的な活動です。この計画は理念として「誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせるまち 港北」をかかげています。その実現のため、私たち住民の一人ひとりが自身の暮らすまちに関心を持つとともに、行政、社会福祉協議会、地域ケアプラザとの協働や、自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、地域福祉保健の活動団体、社会福祉施設や企業等と連携などにより、目標の達成に向けて取り組んで行きましょう。

港北区の福祉保健の発展のため、計画の3つの柱である「理解、参加が“ひろがる”」「人、活動が“つながる”」「支援の手が“とどく”」取組へ、皆さまからのお力添えをいただきますよう引き続きお願い申し上げます。



社会福祉法人横浜市港北区社会福祉協議会  
会長 関 治美

# 目次

## 第1章 地域福祉保健計画

1 地域福祉保健計画とは	1
2 地域福祉保健計画の推進における「自助」「共助」「公助」の連携	2
3 計画の位置づけ	3
(1) 市計画との関係	
(2) 主な福祉保健分野別計画との関係	
4 区(全体)計画と地区別計画の関係	4
5 港北区の特性	4

## 第2章 港北区地域福祉保健計画 区計画

1 計画の基本理念	5
2 「ひっとプラン港北」について	5
3 計画推進に参加する組織や団体	
(1) 計画推進におけるそれぞれの役割	6
(2) 各機関の機能	7
(3) 「ひっとプラン港北」における地域の考え方	9
4 3つの柱と重点目標	11
<b>重点目標1</b>	13
人と人とのつながりづくりを進め、幅広い住民が地域活動に参加・参画できるようにする	
<b>重点目標2</b>	14
支援が必要な人を取り残さない	
<b>重点目標3</b>	15
子どもの健やかな成長を支える	
<b>重点目標4</b>	16
様々な年齢、立場、背景や価値観の多様性を認め合う地域をつくる	
<b>重点目標5</b>	17
心身の健康の維持・増進を支援する	
<b>重点目標6</b>	18
災害に対する自助・共助・公助を推進する	
5 推進体制と取組状況の振り返り	19
(1) 区(全体)計画	
(2) 地区別計画	

## 第3章 港北区地域福祉保健計画 地区別計画

地区別計画について	29
日吉地区	31
綱島地区	33
大曽根地区	35
樽町地区	37
菊名地区	39
師岡地区	41
大倉山地区	43
篠原地区	45
城郷地区	47
新羽地区	49
新吉田地区	51
新吉田あすなる地区	53
高田地区	55

### トピックス

◆ 地域の力を高めるために	10
◆ 第4期計画から第5期計画の策定にあたって	20
◆ 高齢者、障害者等の権利擁護の推進	24
◆ もしもの時の医療やケアを考える 人生会議(アドバンス・ケア・プランニング)	24
◆ ひきこもりの理解促進について～「8050問題」との関係性～	25
◆ ヤングケアラーへの支援	26
◆ 多様性を尊重した幅広い市民参加の促進	27
◆ 地域活動に参加したくなったら	57

### ちょっとひと息

◆ 港北区地域福祉保健計画「ひっとプラン港北」キャラクター紹介	28
---------------------------------	----

### 参考資料

1 データ集	61
2 区民意識調査	65
3 第5期計画策定の経過	69
4 用語集	73
5 「ひっとプラン港北」策定・推進会議委員名簿	77

# 第1章 地域福祉保健計画

## 1 地域福祉保健計画とは

### (1) 横浜市地域福祉保健計画

地域福祉保健計画は、「その地域に住む誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせるまち」を目指し、地域住民と関係団体、行政、事業者等が連携して地域の様々な生活課題の解決に取り組み、助け合いや支え合いのある地域づくりを進める計画です。法的には、社会福祉法第107条の規定に基づき、各市町村が策定することとなっています。

横浜市では、福祉と保健の両分野の取組を一体的に推進するため、計画の名称を「地域福祉保健計画」としています。計画は、市全体の計画である市地域福祉保健計画（＝市計画）と、区ごとに策定する区地域福祉保健計画（＝区計画）があります。

区計画は区（全体）計画と、地区連合町内会単位で策定する地区別計画で構成されます。

### (2) 地域福祉活動計画

全国社会福祉協議会が策定した地域福祉活動計画策定指針に基づいて策定・推進する「地域福祉活動計画」があります。この計画は、住民や各種施設、団体等が社会福祉協議会と協働し、民間サイドから福祉のまちづくりを進める活動・行動計画です。

横浜市域の計画である「横浜市地域福祉活動計画」、港北区域の計画である「港北区地域福祉活動計画」を、それぞれ市社協、区社協で策定し、推進していました。

### (3) 港北区における計画の策定経緯

地域の福祉保健を推進するこのふたつの計画が相互に補完し、連携と役割分担をすることが効果的なことから、横浜市では「横浜市地域福祉保健計画（愛称：よこはまえがおプラン）」としてひとつにまとめ、推進することとしています。

港北区においても、第2期計画より、区計画である「港北区地域福祉保健計画」と区社会福祉協議会（以下、区社協）が策定する「港北区地域福祉活動計画」を、【港北区地域福祉保健計画（愛称：ひっとプラン港北）】としてひとつにまとめ、推進しています。

〈市計画・区計画の計画期間〉

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
市計画	第1期					第2期					第3期					第4期					第5期	
活動計画 (市社協)	第2次	第3次				第4次				第3期					第4期					第5期		
区計画	第1期					第2期					第3期					第4期						
活動計画 (区社協)	第2次	第3次				第2期					第3期					第4期						



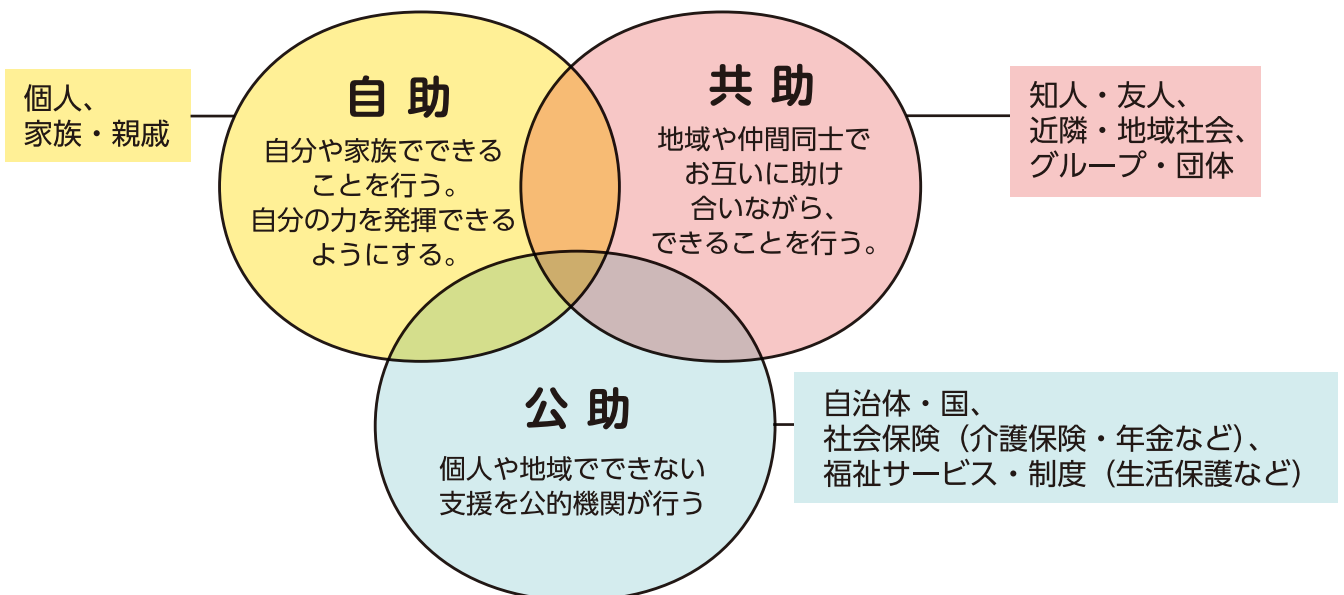
## 2 地域福祉保健計画の推進における「自助」「共助」「公助」の連携

地域福祉保健計画の推進は、一部の人だけで進めるものではありません。地域のすべての人が主人公です。あいさつや声掛け、見守り、ちょっとしたお手伝い等、ほんの少しのことが地域の助け合い、支え合いにつながっています。区民の皆さんや地域の多様な主体がそれぞれの立場でできる活動を行い、連携、協力することにより進めていきます。



個人でできることは自分たちで取り組む「自助」、ひとりでは解決できないことをお互いに助けあう「共助」、行政でなければ解決できない問題に取り組む「公助」が相互に連携して進められることが重要です。

地域福祉保健計画では、生活課題や地域課題の解決に向けて「自助」、「共助」、「公助」を組み合わせ、関連づけながら総合的に取組を進めていきます。



### 3 計画の位置づけ

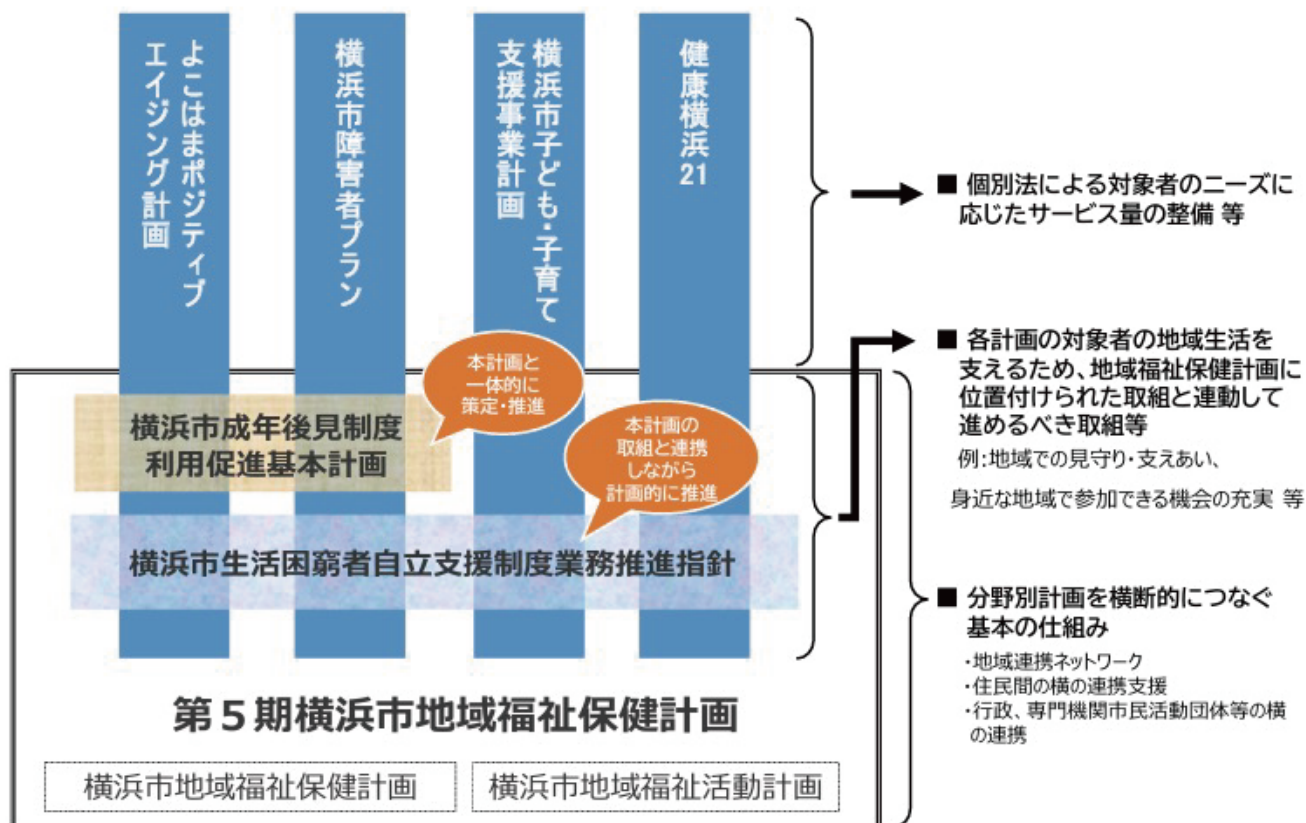
#### (1) 市計画との関係

横浜市の地域福祉保健計画は、市計画と 18 区の区計画で構成しています。政令指定都市である横浜市の場合、各種福祉保健サービスの提供や区民ニーズと地域特性に基づく取組の中心は区であるため、各区計画を策定し、区の特성에応じた取組を進めています。

#### (2) 主な福祉保健分野別計画との関係

横浜市の地域福祉保健計画は、地域の視点から各分野別計画に共通する理念、方針、及び取組推進の方向性を明示し、対象者全体の地域生活の充実を図ることを目指しています。また、住民、事業者及び公的機関が協働する基本的な事項を横断的に示すことで、地域における展開を総括する役割を果たします

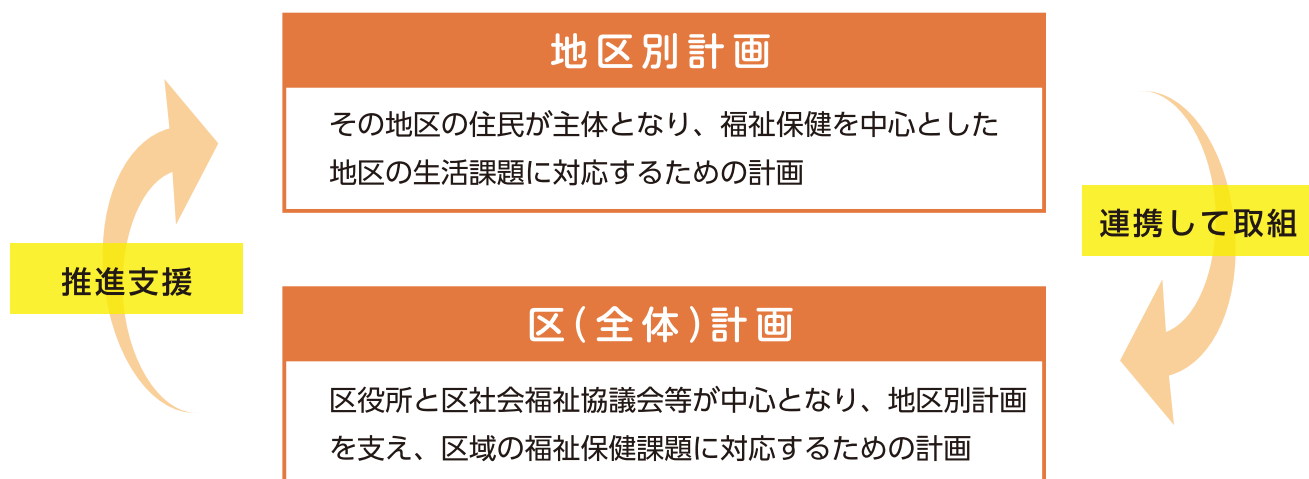
#### 〈主な福祉保健分野別計画との関係〉





## 4 区(全体)計画と地区別計画の関係

港北区地域福祉保健計画は、「区(全体)計画」と「地区別計画」とから構成されています。



地区別計画は区内13の連合町内会エリアを単位としてそれぞれ策定されています。

区計画と地区別計画は、それぞれ独立した計画ではありません。

基本理念や計画推進の柱、重点目標を共有し、相互に連携しながら策定・推進を進めています。

## 5 港北区の特性

港北区は、横浜市の北部に位置し、人口、世帯数とも、市内第1位の規模となっています。農業、工業、商業等の経済活動も盛んで、交通の利便性が高いことから、東京都心部のベッドタウンであると同時に、新横浜周辺の商業施設や大学が立地する等、通勤通学地の側面も併せ持ちます。これらの特徴から、人口の転出入が活発で、子どもや子育て世代が多く、人口が増え続けている区です。一方で今後、高齢化が急速に進むことが予想されます。また、住民主体の地域活動が活発に行われています。しかし、世帯規模の縮小や近隣との関係の希薄化により、個人や家族だけでは解決できない問題が増えています。

### 港北区の特性



# 第2章 港北区地域福祉保健計画 区計画

## 1 計画の基本理念

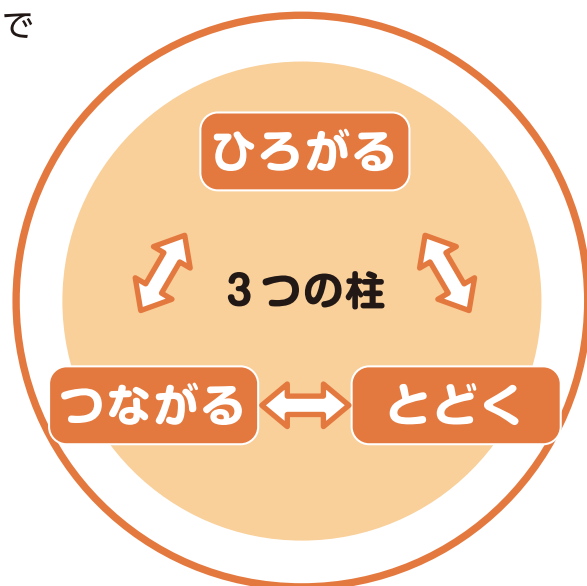
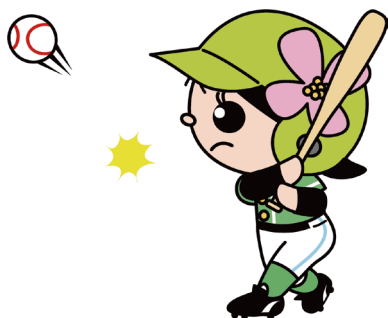
### 誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせるまち 港北

すべての区民が人とのつながりをつくりながら、できるだけ長く健康に自立して過ごすことを基本に、助け合い、支え合いのある安心して自分らしく暮らせるまちを目指します。

## 2 「ひっとプラン港北」について

港北区地域福祉保健計画の愛称です。理解、参加が「ひろがる」、人、活動が「つながる」、支援の手が「とどく」を3つの推進の柱とし、柱の3つの頭文字「ひ」「つ」「と」をつなげた「ひっとプラン港北」を第2期計画から愛称として計画を推進しています。

さらに、コツコツとヒットを積み重ねることで確実に計画がつながり進んでいくという願いが込められています。

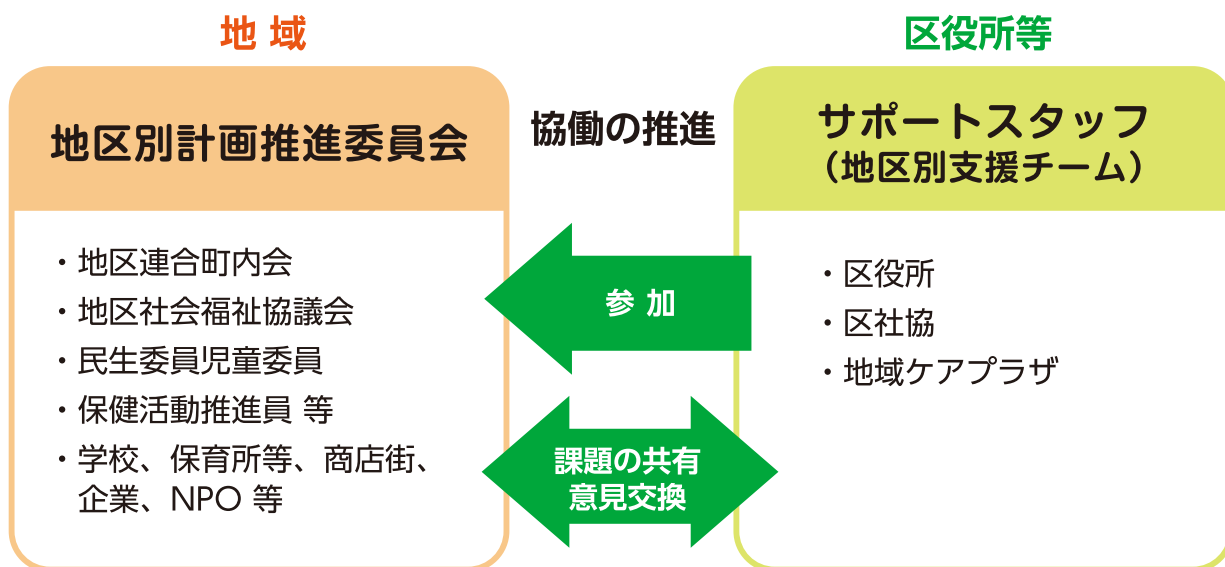




### 3 計画推進に参加する組織や団体

#### (1) 計画推進におけるそれぞれの役割

区役所と区社協、地域ケアプラザは、様々な生活課題への住民の取組を支援します。社会情勢の変化を踏まえて、それぞれが持つ事業との連動を意識しながら、地域住民とともに地域の特性にあわせた解決策を検討していきます。区役所と区社協、地域ケアプラザの三者が「サポートスタッフ（地区別支援チーム）」として連携し、以下の役割を担いながら地域との連携を進めていきます。



#### ア 住民や民間活動団体、事業所等が行う福祉保健活動の支援

- ・住民や地域活動団体、NPO 法人、企業等との有機的な連携を進め、地域の状況に応じた福祉保健事業を展開します。
- ・地域活動団体に対する企画、運営、広報等の支援を強化します。

#### イ 地域と民間事業者を含む多様な団体、専門機関のネットワーク構築

- ・自治会町内会、福祉活動団体、ボランティア、事業所や専門機関等のネットワークを構築し、地域で支援を必要とする人を重層的に支える仕組みをつくります。
- ・共通のテーマに基づく広域の活動団体や企業等と地縁組織の連携のきっかけをつくることにより、地域活動の活性化を図ります。

#### ウ 地域活動を推進するための環境や条件の整備

- ・地域活動の円滑な推進のため、担い手の確保や財源的な支援、活動拠点となり得る場の検討、必要な情報等の整理を行います。

## エ 福祉保健課題や地域の福祉保健活動に対する理解の促進

- ・幅広い世代の住民に対して、福祉保健活動の普及啓発を進めます。
- ・個別の支援に関する課題検討の中で明らかになった地域の課題を、地域の住民と共有し、解決に向けた検討を行う場を、小さなエリアごとにつくっていきます。

## (2) 各機関の機能

### ア 区役所

区役所は、区計画推進の総合的な調整や進行管理を行うとともに、高齢、障害、子ども等の分野ごとの個別支援や、地域・関係機関のネットワークづくり、社会資源の創出等、地域の福祉保健課題解決のために必要な施策を展開しています。

また、地域における協働を総合的に支援するため、地区担当を配置し、地区別計画の推進支援、地域の課題解決・連携支援を行っています。地区担当と専門職がサポートスタッフ（地区別支援チーム）として地区別計画を支援しています。

### イ 区社協

区社協は、地域住民や様々な団体・施設・関係機関等の参画により、地域の生活課題の把握とその解決の仕組みづくりを進めていく地域福祉の推進役として法的に位置づけられた地域支援の専門性を有する組織です。高い公共性を持つ民間組織として、ネットワークや専門性を活かし、かつ状況の変化にも柔軟に対応しながら、地域福祉保健計画の推進に取り組めます。

### ウ 地域ケアプラザ

地域ケアプラザは、地域の身近な福祉保健活動の拠点、相談機関として、地域住民の福祉保健に関する様々な相談等から、個別課題やエリア内の地域情報を把握し、課題解決に向けた活動を行っています。

また、地域の様々な活動団体とともに、地域の状況に応じた見守り、支え合いの仕組みづくりを行う等、地区別計画の推進支援の中核的な役割を担います。さらに、区役所・区社協と連携しながら、誰もが住み慣れた地域で生活を継続できるよう、「地域包括ケアシステム」の構築を推進します。



## Ⅱ 地域組織・社会福祉団体・施設・企業・区民

組織・団体・個人	計画推進に向けた取組
連合町内会 自治会町内会 地区社会福祉協議会 (地域の福祉保健活動等の中核となる組織)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の進行状況を把握するとともに、福祉保健活動団体や事業者とも連携して計画を推進します。</li> <li>・地域に計画を広く周知し、多くの区民が地域活動に関心を持つように働きかけ、参加を促します。</li> </ul>
福祉保健活動団体 (地域の活動団体、行政からの委嘱委員(民生委員・児童委員等)、NPO法人等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの活動を実施、充実していくことで計画を推進します。</li> <li>・地域にある他の福祉保健活動団体等と連携し、計画の推進に取り組みます。</li> </ul>
学校、保育所等、医療・福祉関連施設※1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の計画を理解し、その取組に協力します。地域との交流や住民交流のきっかけづくりを積極的に行います。</li> <li>・活動場所や技術等の提供を行うことで、地域の福祉保健活動を支援します。</li> </ul>
企業 (企業、商店会、福祉関連事業所※2等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の計画を理解し、推進に協力します。</li> <li>・地域との交流を積極的に行います。</li> <li>・企業は、社会貢献活動の一つとして、地域活動の活動場所の提供や地域イベントへの協力等を行います。</li> <li>・福祉関連事業所は活動内容を地域に発信し、事業所としての得意分野を生かした地域支援を行います。</li> </ul>
区民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な計画である地区別計画を理解し、地域組織等が行う活動に関心を持ち、できることから参加します。</li> <li>・日頃から近所の方々と交流し、あいさつや声かけができる関係をつくれます。</li> <li>・近隣で困っている方に対してできることから行動します。</li> </ul>

※1 <<医療・福祉関連施設>>基幹相談支援センター、後見的支援室、生活支援センター、地域子育て支援拠点、横浜市多機能型拠点、横浜市リハビリテーションセンター、障害者スポーツ文化センター、在宅医療相談室等

※2 <<福祉関連事業所>>

障害福祉サービス事業所(地域活動支援センター、障害者地域作業所、地域活動ホーム等) 障害児通所支援事業(児童発達支援、放課後等デイサービス)、介護保険サービス事業所(居宅介護、デイサービス、ショートステイ、認知症グループホーム、特別養護老人ホーム等)

### (3) 「ひっとプラン港北」における地域の考え方

福祉保健の取組を進めていく上では、取組の特性に応じて適切に地域の範囲を設定する必要があります。



#### 例

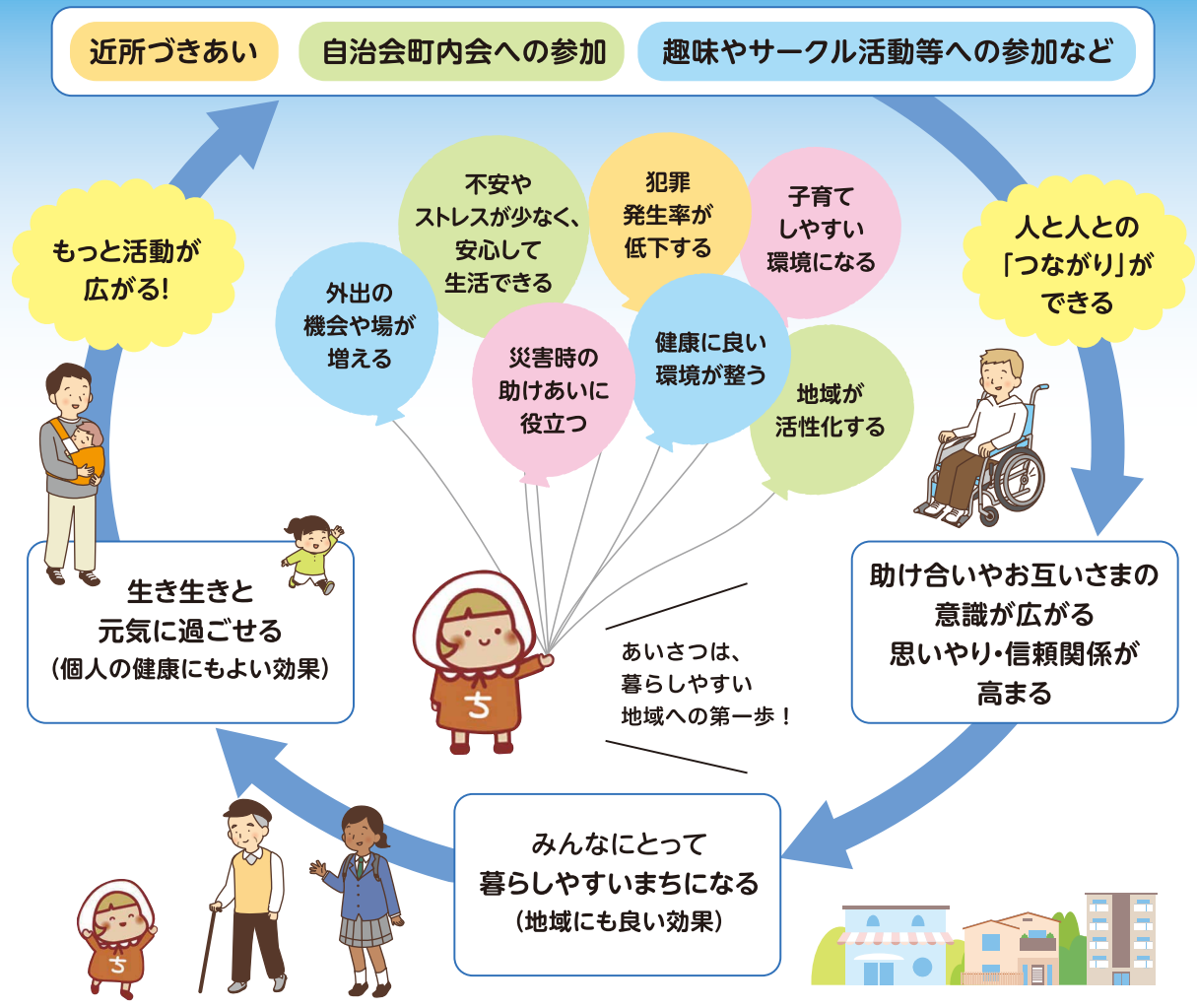
- お互いの顔や名前がわかる近隣の単位でできる見守り等の活動
- それよりも大きな圏域である地区連合町内会の資金や人材によりできるサロン活動や健康づくり活動
- 区域での地域福祉に携わる関係者の情報交換や連携の場、専門家の支援



トピックス

## 地域の力を高めるために


「地域のつながり」はソーシャルキャピタルとも呼ばれ、「地域の力」「住民の底力」と表現されることもあります。  
一人ひとりが「つながり」をつくることで住んでいる人全体にもよい影響があり、それは循環します。



引用：横浜市健康福祉局発行「自分も元気！地域も元気！～住む人もまちも元気になる だれもが活躍できるまちづくり～」

地域福祉保健計画の策定はゴールでもスタートでもなく、「誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせるまち」を目指すためのプロセスの一部です。

計画の策定・推進を繰り返すことで、地域の問題が自分にも関係があると気付く人が増えたり、問題解決に参加する人が増えるなど、地域の力を高めることに繋がります。



### 今日からできるつながり はじめの一步

- ・ 近隣の人々とあいさつを交わしてみる
- ・ 自治会町内会の活動に注目してみる
- ・ 趣味を活かしてできることを探してみる

## 4 3つの柱と重点目標

ひっとプラン港北では、計画を進める上での大きな視点・計画全体の方向性を示す「推進の柱」と、目指す姿や具体的な取組を示す「重点目標」を設定しています。

推進の柱と重点目標は相互に補完し合い、柱が示す方向性を重点目標が具体化することで、両者が一体となって地域福祉の実現に向けた体系的な取組を形づくっています。

### 推進の柱 1

理解、参加が  
ひろがる

世代を超えて理解と参加を促し、活発で持続可能な地域づくりを進めます。

### 推進の柱 2

人、活動が  
つながる

住民同士の交流と多様性の理解を進め、健康で安心して暮らせるまちづくりを進めます。

### 推進の柱 3

支援の手が  
とどく

住民同士がお互いを気にかけてあい、必要な人に適切な支援が届くような地域づくりを進めます。

### 重点目標 1

人と人とのつながりづくりを進め、幅広い住民が地域活動に参加・参画できるようにする

### 重点目標 2

支援が必要な人を取り残さない

### 重点目標 3

子どもの健やかな成長を支える

### 重点目標 4

様々な年齢、立場、背景や価値観の多様性を認め合う地域をつくる

### 重点目標 5

心身の健康の維持・増進を支援する

### 重点目標 6

災害に関する自助・共助・公助を推進する



# 重点目標の凡例

【目指す姿】  
地域住民がどのような状態になっているか

## 重点目標 1

人と人とのつながりづくりを進め、  
幅広い住民が地域活動に参加・参画できるようにする

### 目指す姿

地域活動への関心が高まり、多くの人・団体等が参加している。  
また、参加するだけでなく企画・運営に携わっている人が増え、  
活動が活発に行われている。

【概念・取組目標】  
取組の方向性、  
考え方

### 【概念、取組目標】

- ① 地域活動の魅力伝えることで、地域活動への参加のきっかけを増やします。
- ② 地域活動に関する情報を対象者に合わせて発信します。
- ③ 地域活動に参加している住民を参加から参画へつなげます。

### 【具体的な取組】

- ・円滑な福祉保健活動の推進のために、地域資源の活用を進め、住民が交流する機会と場を調整します。
- ・多様な活動団体のネットワークづくりを進めます。
- ・地域活動を始めたい個人や団体、多様な経験やスキルを持った人材が、地域の中で安定して活動できるまでの情報共有や支援を行います。
- ・これまでの人と人との対面でのつながりを大切にしつつ、デジタル技術の活用など、若年層や高齢者等の対象に合わせた媒体を用いて、地域活動の重要性や魅力を効果的に発信します。また地域の活動団体等が情報を発信する取組を支援します。
- ・企業、施設等と協働した取組を支援します。
- ・既存の取り組みや居場所を活用しながら、ひっそりプラン港北の認知度向上に取り組めます。

- ・ 区役所
- ・ 区社会福祉協議会
- ・ 地域ケアプラザ等が行うこと

### 地区別計画での取組例

- ・ 地域活動に関する紙面や IT を活用した情報発信（広報紙、ホームページ等）、活用のための講座の開催
- ・ 多様な世代が参加しやすい行事や活動の企画、運営
- ・ サロンや居場所の立ち上げ、運営（子育て、高齢者、多世代交流等）
- ⇒ 誰もが活動に参加できるイベント「ふくふくスタンプラリー」 **日吉 P31**
- ⇒ 「たるまち LINE 掲示板」「デジタル掲示板」 **樽町 P37**

取組目標を達成していくための具体的な取組、区・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが中心になって行うこと

重点目標と地区別計画との関係性、具体的な取組例

## 重点目標 1

# 人と人とのつながりづくりを進め、 幅広い住民が地域活動に参加・参画できるようにする

## 目指す姿

地域活動への関心が高まり、多くの人・団体等が参加している。  
また、参加するだけでなく企画・運営に携わっている人が増え、  
活動が活発に行われている。

- ・ 区役所
- ・ 区社会福祉協議会
- ・ 地域ケアプラザ等が行うこと

### 【概念、取組目標】

- ① 地域活動の魅力を伝えることで、地域活動への参加のきっかけを増やします。
- ② 地域活動に関する情報を対象者に合わせて発信します。
- ③ 地域活動に参加している住民を参加から参画へつなげます。

### 【具体的な取組】

- ・ 円滑な福祉保健活動の推進のために、地域資源の活用を進め、住民が交流する機会と場を調整します。
- ・ 多様な活動団体のネットワークづくりを進めます。
- ・ 地域活動を始めたい個人や団体、多様な経験やスキルを持った人材が、地域の中で安定して活動できるまでの情報共有や支援を行います。
- ・ これまでの人と人との対面でのつながりを大切にしつつ、デジタル技術の活用など、若年層や高齢者等の対象に合わせた媒体を用いて、地域活動の重要性や魅力を効果的に発信します。また地域の活動団体等が情報を発信する取組を支援します。
- ・ 企業、施設等と協働した取組を支援します。
- ・ 既存の取り組みや居場所を活用しながら、ひっとプラン港北の認知度向上に取り組みます。

## 地区別計画での取組例

- ・ 地域活動に関する紙面や IT を活用した情報発信（広報紙、ホームページ等）、活用のための講座の開催
- ・ 多様な世代が参加しやすい行事や活動の企画、運営
- ・ サロンや居場所の立ち上げ、運営（子育て、高齢者、多世代交流等）

⇒ 誰もが活動に参加できるイベント  
「ふくふくスタンプラリー」

日吉 P31

⇒ 「たるまち LINE 掲示板」  
「デジタル掲示板」

樽町 P37



## 重点目標 2

# 支援が必要な人を取り残さない

## 目指す姿

住民同士がお互いを気にかけて合うことや  
関係機関との連携によって必要な人に情報が届き、  
いざという時に支援につながるができる。

- ・ 区役所
- ・ 区社会福祉協議会
- ・ 地域ケアプラザ等が行うこと

### 【概念、取組目標】

- ① 地域と専門機関の連携を強化することで、情報等の速やかな把握や適切な支援につなげます。
- ② 日常的な近隣関係や地域活動を通じた緩やかな見守りを推進します。

### 【具体的な取組】

- ・ 医療・福祉関係者、関係施設等と連携し、認知症や障害、虐待予防、医療・ケアに関する本人・家族の意思決定等について、普及啓発を行います。
- ・ 必要とする人が支援やサービスの情報を得られるよう対象に合わせた情報発信を工夫し取り組みます。
- ・ 医療機関・福祉施設・学校と連携をとり高齢者や障害者、子育て等分野別の支援者ネットワークを強化します。
- ・ 住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることができるよう、医療と福祉の連携を強化します。
- ・ 住民と活動団体、関係機関等が地域の課題について共有し、対応を検討する場づくりを支援します。
- ・ 民生委員・児童委員の活動を支援します。
- ・ 権利擁護のための取組を進めます。
- ・ 生活困窮者やひきこもり等、地域の中でつながりが希薄な人も気軽に行ける場所や困った時に相談ができる活動を支援します。

## 地区別計画での取組例

- ・ 啓発講座、福祉教育、認知症サポーター養成講座等の実施
- ・ 支援が必要な方の緩やかな見守りや声掛け
- ・ ボランティア（家事支援、育児支援、障害児の通学支援・余暇活動、学習支援等）の活動

- ⇒ 地域の課題を話合う「ささえあいネットワークの会」 **大曾根 P36**
- ⇒ 各自治会のミニデイサービス **篠原 P46**

## 重点目標 3

# 子どもの健やかな成長を支える

## 目指す姿

地域活動に参加する子どもや子育て世代が増え、地域との交流が活発になることで、みんなで見守り安心して子育てできる地域になっている。

- ・ 区役所
- ・ 区社会福祉協議会
- ・ 地域ケアプラザ等が行うこと

### 【概念、取組目標】

- ① 地域全体で子どもを緩やかに見守り、相談できる環境を整えます。
- ② 世代間交流を促進し、子育て世代と地域のつながりを強化します。

### 【具体的な取組】

- ・ 子育てに関する情報発信等は、SNSや電子申請等のデジタル技術を積極的に活用します。
- ・ 企業や地域の子育て団体、学校、保育所等との連携を強化します。
- ・ 高齢者から子どもまで幅広い世代が交流できるイベントを開催します。
- ・ 育児に悩む子育て世代、不安や悩みを抱えた子どもも安心して集まれる場所をつくります。
- ・ 共働き世帯や父親の育児参加等、社会的な変化に合わせ、工夫した情報発信等を行います。

## 地区別計画での取組例

- ・ 地域（子ども）食堂の運営
- ・ 親子サークルの支援
- ・ 地域イベントの開催

⇒ 福祉祭り「わぁいわぁい広場」  
師岡 P41

⇒ 緑道整備の場を子どもの遊び場へ  
「新田緑道みちあそび」 新羽 P49



## 重点目標 4

# 様々な年齢、立場、背景や価値観の多様性を 認め合う地域をつくる

## 目指す姿

高齢者や障害者、外国人、性的少数者等、  
誰もが社会参加でき、日常的に交流や相互理解が進んでいる。

- ・ 区役所
- ・ 区社会福祉協議会
- ・ 地域ケアプラザ等が行うこと

### 【概念、取組目標】

- ① 地域には様々な人が暮らしていることへの住民の理解を深めます。
- ② 年齢、障害等にかかわらず、参加できる場を増やします。
- ③ 立場が違ってもお互いにとって心地よい距離の関係性をつくりまします。

### 【具体的な取組】

- ・ 障害や病気、国籍等、地域に暮らす様々な方への理解を深める講演会等を実施します。
- ・ 学校や企業、関係機関と連携して福祉への理解を深めます。
- ・ つどいの場づくりや社会参加の機会づくりをする際には、対象に合わせたアプローチができるように支援します。
- ・ 障害者が利用する施設等と地域がつながるきっかけをつくりまします。
- ・ 地域活動やイベントに、地域に暮らす様々な人がつながるよう支援を行います。

## 地区別計画での取組例

- ・ 住民主体で実施する身近な地域での認知症カフェ、障害者等の居場所づくり
- ・ 地域の福祉施設と協働した交流の機会づくり
- ・ 地区単位での福祉講座の実施
- ・ やさしい日本語版を使った外国人へゴミの出し方等の啓発

⇒ 障害者施設の自主製品を  
地域イベントで販売 **大倉山 P44**

⇒ 障害理解講座の開催 **城郷 P47**

## 重点目標 5

# 心身の健康の維持・増進を支援する

## 目指す姿

健康の維持・増進の大切さの理解が深まり、  
つながりづくりや身近な地域で生涯を通じて  
健康づくりを行う場が増えている。

- ・ 区役所
- ・ 区社会福祉協議会
- ・ 地域ケアプラザ等が行うこと

### 【概念、取組目標】

- ① 健康の維持・増進の大切さへの理解を深めます。
- ② 身近な地域で健康づくりを行う場、機会を増やします。

### 【具体的な取組】

- ・ 健康づくり・介護予防（フレイル予防）への関心、意欲を高める講座等を行います。
- ・ 適切な運動や社会参加等が健康を保つことを周知します。
- ・ 保健活動推進員や食生活等改善推進員が、他の委嘱委員や活動団体と連携して取り組む健康づくり活動を支援します。
- ・ 幅広い世代への食育活動を推進します。
- ・ 身近な地域で介護予防の取組ができる場や機会を提供します。
- ・ 生活習慣に大きく影響する就学・就業の有無等を考慮し、ライフステージに合わせた取組や環境づくりを進めます。

## 地区別計画での取組例

- ・ ウォーキング、ラジオ体操等健康づくり活動の実施
- ・ 介護予防、認知症予防講座の開催
- ・ サロン活動等、社会参加・つながりづくりの場の運営

⇒ ラジオ体操 菊名 P39

⇒ 健康づくり推進の活動  
「やすらぎ塾」 新吉田 p51



## 重点目標 6

# 災害に関する自助・共助・公助を推進する

## 目指す姿

災害対策をきっかけとして住民同士の顔の見える関係づくりが行われ、災害時に要援護者等の助け合いが行える準備ができています。

- ・ 区役所
- ・ 区社会福祉協議会
- ・ 地域ケアプラザ等が行うこと

### 【概念、取組目標】

- ① 災害時要援護者に関する取り組みを進めます。
- ② 様々な世代が関係する災害対策をきっかけとした地域の顔の見える関係づくりを進めます。

### 【具体的な取組】

- ・ 個人備蓄の促進や、世代・国籍等対象者に合わせた防災啓発を行います。
- ・ 要援護者の避難支援や安否確認等の必要性を啓発します。
- ・ 医療機関・福祉施設・学校と連携をとり高齢者や障害者、子育て等分野別の支援者ネットワークを強化します。
- ・ 配慮を要する人（高齢者や障害者、妊産婦・乳幼児等）が、安心して避難できるように、避難所や福祉避難所の運営支援や理解の促進に取り組めます。
- ・ 様々な世代の人々が関係する防災をきっかけとした住民同士の顔の見える関係づくりを支援します。
- ・ 災害時のボランティア活動をスムーズに運営するため、災害ボランティアセンターの体制整備に取り組めます。

## 地区別計画での取組例

- ・ 災害対策をきっかけにした地域のつながりづくり
- ・ 災害時の安否確認、助け合い
- ・ 地域防災拠点訓練等と連携した要援護者支援訓練

- ⇒ 防災・減災の普及啓発、防災袋の活用 **綱島 P34**
- ⇒ 自治会町内会と民生委員との連携による災害時要援護者の見守り **新吉田あすなる P54**
- ⇒ たかた防災ふれあい祭り **高田 P55**

## 5 推進体制と取組状況の振り返り

「ひっとプラン港北」第5期計画では、刻々と変化する地域社会を取り巻く情勢に応じた計画となるよう、計画の推進にPDCAサイクル（計画（Plan）→ 推進（Do）→ 振り返り（Check）→ 計画継続・追加・修正（Act））を活用しながら、毎年度に計画の振り返りを行い、翌年度の活動に反映・共有することで、様々な生活課題の解決に努めます。また、福祉保健活動の取組の発表やひっとプラン港北の周知・啓発の場として区民フォーラムを開催します。

### (1) 区(全体)計画

#### 推進体制

区内の自治会町内会、福祉保健活動団体等の代表者及び学識経験者で構成する「『ひっとプラン港北』策定・推進会議」において計画の推進や振り返りを総合的に協議していきます。

#### 振り返り

取組の確認を区役所、区社協、地域ケアプラザにて行い、その内容は「ひっとプラン港北」策定・推進会議へ報告します。

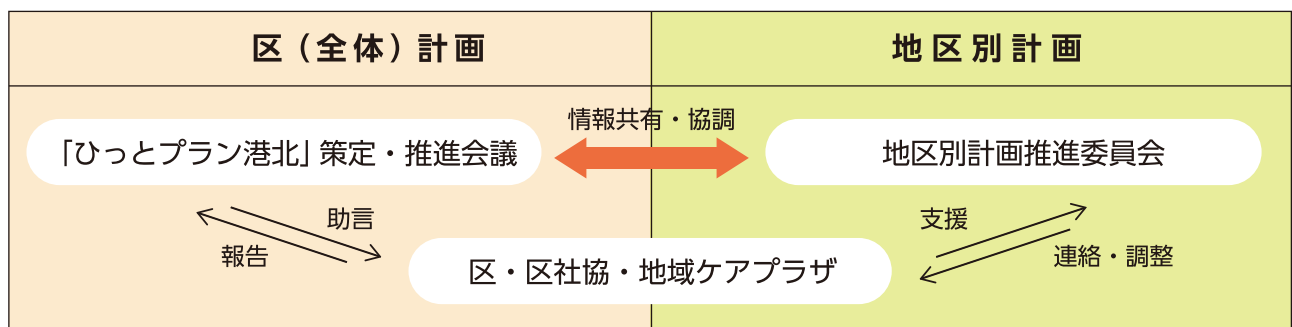
### (2) 地区別計画

#### 推進体制

地区ごとに、連合町内会、地区社会福祉協議会等の地域の活動団体等が中心になり、地域の皆さん一人ひとりの参加を元に、活動・取組を進めていきます。  
区役所・区社協・地域ケアプラザがサポートスタッフとして連携して、地域の活動を支えています。

#### 振り返り

振り返りの場等を設定し、次年度の取組に反映させます。





トピックス

## 第4期計画から第5期計画の策定にあたって

第4期計画では、基本理念「誰もが安心して健やかに暮らせるまち港北」のもと、3つの推進の柱「ひろがる」「つながる」「とどく」に沿って、区民と区役所、区社協、地域ケアプラザが連携して福祉保健課題に取り組みました。特に子どもや子育て世帯を地域活動につなげることを目的とした事業を行いました。

なお、港北区の特徴として住民の転出入が多いため、様々な人が地域活動につながり参加できるよう働きかけを行いました。

### 1 区計画の推進について

推進の柱 1

## 「ひろがる」 理解と参加のひろがりによる活発な地域づくり

多くの人々が地域活動を知り、参加することにより魅力や必要性の理解が進み、地域活動を行う人を増やす取り組みを進めました。

未来を担う子どもたちや親の世代と地域をつなぐをつくり、子どもや青少年の健全育成のために地域としてできる支援を行うとともに、あわせて世代間交流を進め、地域の活性化を図りました。

これまで地域活動に接点の少なかった世代や団体が地域とのつながりを持つきっかけとなりました。また、開催後に公開した団体紹介の動画を通じて、幅広い区民に取組を届けることができました。

#### 重点目標 1 幅広い住民の地域活動への参加促進

#### 重点目標 2 未来を担う次世代育成

- ・「区民フォーラム」の開催を通じた地域の活動事例の紹介
- ・「まちの素敵な取組コンテスト」による活動団体紹介
- ・コンテスト受賞団体の事例を題材にした YouTube 広告を作成
- ・ボランティアセンターの運営によるボランティア情報の発信とコーディネート
- ・小中学校や企業への福祉教育や福祉啓発活動の推進



区民フォーラム



小中学校への福祉教育

地域での交流を推進し、同じ地域で暮らす仲間という意識を育むことで地域の支え合いの基盤づくりを行いました。

年齢や障害の有無にかかわらず地域社会に参加できるよう、多様性の理解を進め、誰でも参加できる機会を増やしました。

住民一人ひとりが健康づくりや地域とつながる重要性を理解し、自分の能力を活かしながらできるだけ長く自立して暮らせるよう、健康づくりの取組や環境づくりを進めました。

映画会や講演会などの啓発活動を通じて、障害理解を深めるとともに社会参加への関心を高めることができました。

### 重点目標 1 人と人とのつながりづくり

### 重点目標 2 年齢や障害の有無にかかわらず誰もが参加できる場づくり

### 重点目標 3 健康寿命を延ばす取組の推進

- ・助成金による福祉保健活動団体の支援
- ・障害理解の啓発を目的とした映画上映
- ・移動情報センターによるガイドボランティアのコーディネート
- ・年齢にとらわれない 生き方をテーマした講演会
- ・介護予防講座の開催を通じた住民の健康維持の推進



障害理解の啓発を目的とした映画上映



移動情報センターの運営



推進の柱 3

## 「とどく」

支援がとどく仕組みづくり

支援が必要な人を確実に把握し、適切な情報や支援を届けていく仕組みの構築を進めるため、日頃から住民同士の顔の見える関係や支援の仕組みづくりを支援しました。区役所、区社協、地域ケアプラザ等関係機関が協働し権利擁護に関する啓発を進めました。また、講演会を通じ、災害の備え等について広く周知することができました。

**重点目標 1 支援が必要な方を発見し支援につなげる仕組みづくり**

**重点目標 2 災害に備えた要援護者支援の取組の推進**

- ・ 成年後見サポートネットの取組による権利擁護活動の周知と事業の利用促進
- ・ 災害をテーマとする「区民フォーラム」の開催による福祉保健活動の啓発
- ・ 自治会町内会による要援護者宅訪問の支援
- ・ 災害ボランティアセンター運営に向けた体制の整備



防災講演会



災害ボランティアセンターの開設訓練

## 2 検討部会の開催

第4期計画の推進の振り返りを受けて、より効果的に次期計画の策定を進めるため、区内の地域福祉保健活動団体や関係機関をメンバーとする検討部会を開催し、子ども、障害、高齢、分野横断（防災、生活困窮）をテーマとした意見交換を行いました。

どの検討部会の意見交換においても、参加者の減少や担い手の不足、対象に応じた情報発信や場の提供について課題としてあげられました。

## 3 第5期計画に盛り込む視点

これまでの取組や検討部会での結果を受け、港北区における福祉保健活動の現状や取組の課題を確認することができました。これらを5期計画の重点目標作成に活かすとともに、積み重ねてきた取組をさらに充実・発展させていきます。

### (1) 人材の確保・養成

港北区は、古くから地縁組織を中心とした地域活動が活発です。地域福祉の推進や地域課題の解決には住民主体の取組が欠かせません。一方、地域活動の担い手不足について大きな課題となっています。社会の変化や価値観の多様化に合わせ、幅広い住民が参加しやすい活動のあり方を検討するとともに、また、NPO法人や企業とのさらなる連携など、様々な担い手の発掘・確保が求められています。

### (2) 子育て支援の充実

港北区は、子どもや子育て世帯が多く、また転入世帯も多くなっています。子育てをすすめる上で、地域とのつながりは重要です。誰もが子どもを産み育てやすいと実感でき、また、子どもたちは地域のかかわりの中で安心して育つよう、地域全体で子どもや子育て世帯を見守っていく風土づくりが必要です。

### (3) 地域包括ケアシステムの構築と推進

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるような仕組み（地域包括ケアシステム）の構築に向けた取組を進めています。

誰もが他者から支援されるだけでなく、積極的に役割をもって地域活動に参加でき、また、できるだけ長く健康で自立した生活を送ることができるよう、地域の理解と環境整備が必要です。

### (4) 生活困窮者への支援や多様性の理解促進

生活に困っている人を早期に必要な相談支援につなぐため、困りごとを抱えている人に気づき、支援につなげることが大切です。なお、「支える・支えられる」という一方的な関係性ではなく、「相互に支え合える」意識の醸成も求められています。また、外国人、性的少数者など、様々な立場や背景、価値観の違いといった多様性を理解し参加できる、日常的につながる機会や場づくりが必要です。

### (5) 防災を通じた顔の見えるつながりづくり

単身世帯の増加などから、近隣関係の希薄化が進んでいます。また、災害時に要援護となる高齢者世帯が増加傾向にあることから、日ごろからの近隣での交流や顔の見えるつながりづくりといった取組が重要になっています。



トピックス

## 高齢者、障害者等の権利擁護の推進

- 権利擁護は、高齢者・障害者も含めた全ての人の権利を尊重し、自己実現・自己決定を支援していくことです。
- 高齢化が進むことで、判断能力が低下したり、認知症を発症する人も増えています。また、精神障害者保健福祉手帳や愛の手帳（療育手帳）を所持する人の増加傾向が続いています。認知能力の低下や障害により判断能力が十分でない人に対する虐待や権利侵害を防ぐためには、権利擁護支援が必要です。
- 児童虐待や消費者被害など、個人の権利や利益が侵害されないよう取組を進めます。
- 障害や認知能力の低下により判断能力が十分でなくても、状況に合わせた適切な支援を受け、能力を生かしながら、地域の中で安心して生活が送れるよう取組を進めていく必要があります。そのために、支援を行う関係機関がお互いの役割を理解し、ネットワークを構築します。
- 権利擁護支援や成年後見制度利用促進の取組の中心的な役割を担う中核機関である「よこはま成年後見推進センター」と連携し、権利擁護支援や成年後見制度理解を広げ、課題が深刻化する前に支援つなげていきます。

参考：第5期横浜市地域福祉保健計画

トピックス

## もしもの時の医療やケアを考える 人生会議 (アドバンス・ケア・プランニング)

高齢化が進むなか、一人ひとりの高齢者が最期まで本人らしく生きることができるよう医療・ケア意思決定を支援することの重要性が高まっています。もしものときに、どのような医療やケアを望むのか、前もって考え、家族や信頼する人、医療・介護従事者たちと繰り返し話し合い、共有することを「人生会議」(アドバンス・ケア・プランニング：略称ACP)といいます。

日本では、2018年から普及が始まり、11月30日(いい看取り・看取られ)を「人生会議の日」とし、人生の最終段階について考える日としています。

横浜市では、簡単な3つの質問で答えることで、大きな病気やケガなどの時に、どのような治療やケアを望むかを大切な人と前もって話し合い、思いを伝えることのできるツールとして「もしも手帳」の取組を行っています。区役所高齢障害支援課や、ケアプラザ、在宅医療連携拠点や一部の薬局や病院で配布しています。

参考：横浜市医療局発行「もしも手帳」



## ひきこもりの理解促進について ～「8050問題」との関係性～

「ひきこもり」は誰にでも起こり得ることであり、特別なことではありません。

「ひきこもり」とは、社会的な参加の場面が狭まり、自宅以外での生活の場が長期にわたって失われている状態を指す言葉です。

学校や職場での人間関係、心の不調、病気、障害、親の介護などきっかけは様々です。抱えているストレスをうまく解消できず、ひきこもることもあります。そのため、ひきこもること自体は本人のために必要な休養と捉えることもできます。

横浜市が令和4年度に実施した調査によると、横浜市の年齢別人口（令和4年1月1日時点）において、以下の推計結果が出ています。

5～39歳にあたる約983千人うち、

ひきこもり状態にある若者は約13,000人※1

同じく40～64歳にあたる1,330千人のうち、

ひきこもり状態にある中高年は約20,000人※2

※1 出典：令和4年度横浜市子ども・若者実態調査

※2 出典：令和4年度市民生活実態調査

参考：第5期横浜市地域福祉保健計画



### いわゆる8050問題

80代の高齢の親とひきこもり状態にある50代の子が同居している世帯に起こる生活上の問題のことを指しています。主にひきこもりの長期高齢化が影響していると考えられ、親が元気なうちはひきこもりの子を年金や生活力で支援し暮らしていたものが、親が高齢になり医療や介護のケアが必要となることで、生活に行き詰まって問題となります。

- ひきこもりは周りの理解がないことから誰にもSOSを出せずに社会から孤立してしまうことが問題です
- 「ひきこもって問題がある人」ではなく「地域でともに生きている人」だという認識が大切です

参考：第5期横浜市地域福祉保健計画



トピックス

## ヤングケアラーへの支援

### 📖 ヤングケアラーとは

法律上の定義はありませんが、一般的に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に担っている子どもとされています。

例えば“ヤングケアラー”の子どもたちは日常的にこんなことを担っています



障害や病気などのある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



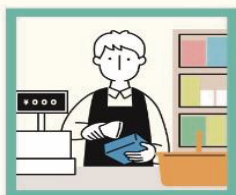
障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



日本語がよくわからない家族や障害のある家族のために通訳や手続きなどを行っている。



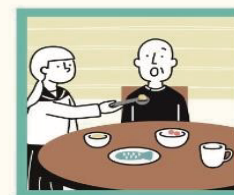
家計を支えるために労働や家の金銭管理をしている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族の対応をしている。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている。



障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

引用：第5期横浜市地域福祉保健計画

過度な負荷がかかっている状況であっても子ども・若者本人や家族がそれを「当たり前」と思っていたり、課題を抱えていたとしても、それを相談できる状況になかったりする場合があります。

まずは周囲がヤングケアラーと思われる子ども・若者の存在に気付くことが重要です。

ヤングケアラーだからといって何か特別な支援をしなければならないと捉える必要はありません。

学校等の所属機関や地域、関係機関への相談などそれぞれの場面や立場で家族の状況に気づき、家族全体をエンパワメントしながら支援につなげていくことが大切です。

参考：第5期横浜市地域福祉保健計画、一般社団法人ヤングケアラー連盟

### 当事者団体と協力して実施する啓発の取組と当事者支援事業

- LGBT など性的少数者は私たちの身近に存在しています（人口の3～10%）。しかし、学校や職場、家族、そして地域社会からの誤解や偏見などを恐れ、周囲に悩みを伝えたくても伝えられずにいる人もいます。
- 性的少数者が抱える課題にきめ細やかに対応するためには、柔軟な行動力等を生かして啓発や相談に取り組む当事者団体との連携が不可欠です。

《当事者団体と連携・協力している取組の一部》

- 性的少数者やその家族などの悩みや困りごとにまつわる展示等、多様な性について「自分に身近なこと」として考えるきっかけづくり
- 性的少数者の方々が悩みを誰にも相談できずに孤立し、ひきこもりや自死という深刻な状況に追い込まれることを防止することを目的とした、市内の当事者団体による性的少数者専門の相談窓口や当事者同士の交流スペースの提供



※「働き方と暮らしの多様性と共生」研究チーム（2019年）「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」、株式会社LGBT総合研究所（2019年）「LGBT意識行動調査2019」、電通ダイバーシティ・ラボ（2018）「LGBT調査2018」など

引用：第5期横浜市地域福祉保健計画

### 国際交流ラウンジにおける相互理解・活躍促進の取組

- 急速な在住外国人人口の増加に伴い、文化や習慣の違いなどにより、地域で暮らす在住外国人と日本人との間に誤解や溝が生じることがあります。
- このため、身近な多文化共生の拠点である「国際交流ラウンジ」は、外国人と日本人の相互理解や外国人の活躍促進の取組を進めています。
- 具体的には、在住外国人へ多言語で生活情報を提供したり、生活ルールの普及啓発に努めるとともに、日本人と外国人が交流を持つ機会を設けることなどを通じて、相互の理解を深め、互いに安心して暮らせるまちづくりを進めています。
- あわせて、在住外国人の地域活動への参画を促す取組も行い、誰もが自分らしく活躍できるまちづくりや地域活性化に取り組んでいます。

港北国際交流ラウンジでは、多言語での相談対応や情報提供を行い、大勢のボランティアと共に日本語教室や学習支援教室、異文化理解のための交流イベントを開催、日本人も外国人もともに暮らしやすく活動しやすいまちづくりを進めています。

参考：第5期横浜市地域福祉保健計画



外国人住民と地域の交流会の様子



ちょっと  
ひと息

## 港北区地域福祉保健計画「ひっとプラン港北」 キャラクター紹介



横浜市地域福祉保健計画キャラクター  
ちふくちゃん

横浜市地域福祉保健計画キャラクター **ちふくちゃん**

港北区地域福祉保健計画キャラクター **こほちゃん**



港北区地域福祉保健計画キャラクター  
こほちゃん

横浜市地域福祉保健計画キャラクターの「ちふくちゃん」は、横浜市地域福祉保健計画の取組内容を推進するためのマスコットキャラクターとして誕生しました。

ちふくちゃんは、誰もが安心して、自分らしく健やかに暮らせる「よこはま」をみんなでつくるため、まちの中を歩いて、人々を見守っています。

ちふくちゃんには、18区に地域福祉保健計画を広める仲間たちがいて、港北区では「こほちゃん」が活躍しています。各地域で地域福祉保健計画の活動が広がり、仲間が増えていくことがちふくちゃん達の願いです。



© 横浜市港北区ミズキー

### 港北区ミズキー

港北区キャラクター「ミズキー」は、区制70周年を記念して誕生したハナミズキの妖精です。港北区にあるハナミズキの木から生まれました。人なつっこいのんびりやさんで、ハナミズキの魔法のつえときみどり色の帽子が宝物。

港北区の魅力を伝え、愛着や親しみを深めてもらうために日々活動しており、皆さんに笑顔を届けています。



港北区社会福祉協議会キャラクター  
ほっぴー

### 港北区社会福祉協議会キャラクター ほっぴー

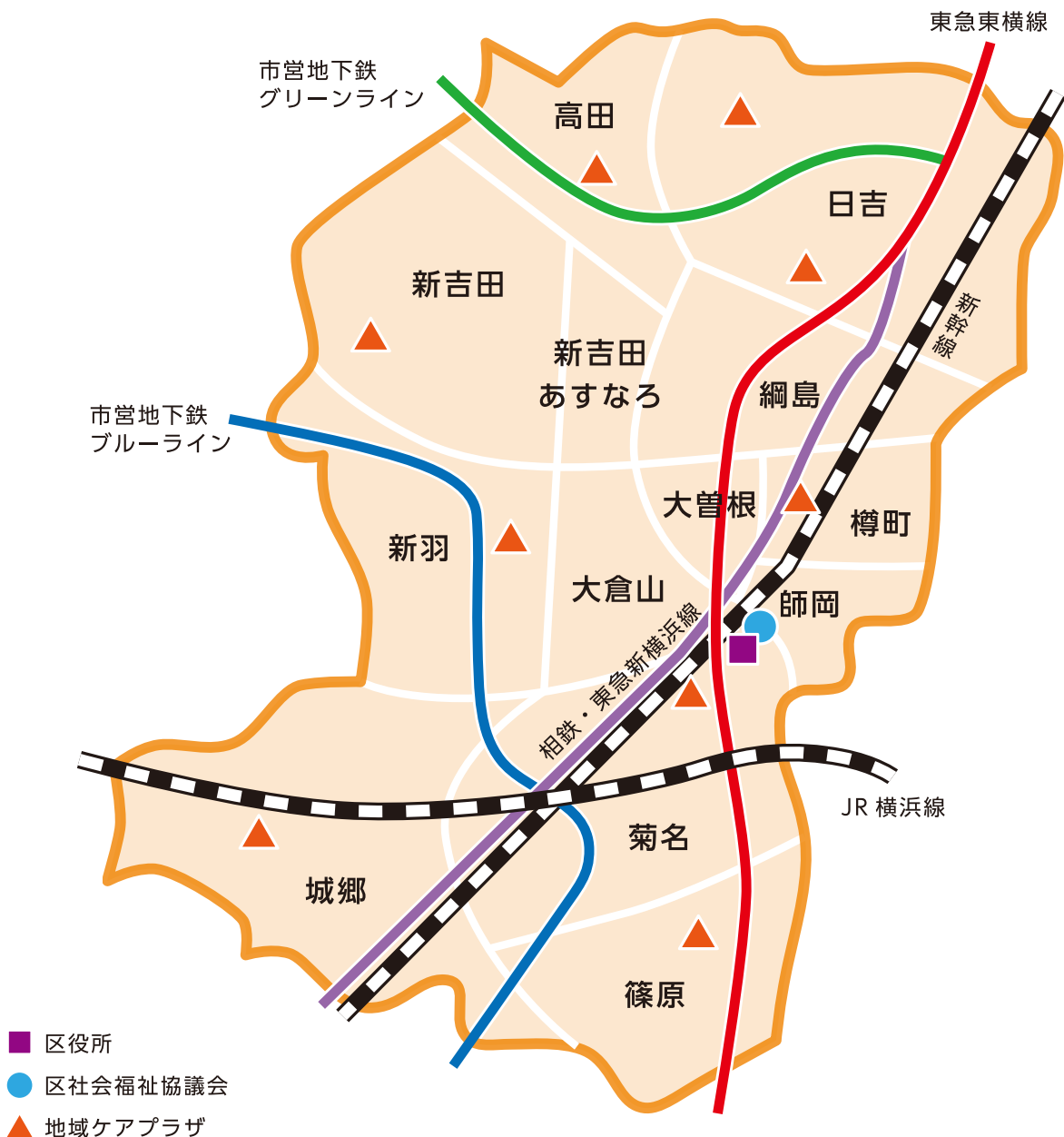
港北区社会福祉協議会のマスコットキャラクター「ほっぴー」は、地域の人たちをやさしく見守る存在として誕生しました。頭には区の木・ハナミズキの花をそっと咲かせ、ふわふわの羽と穏やかなまなざしが魅力で、困っている人を見つけると、羽をふるわせながらそっと寄り添います。季節の花を探す散歩や地域イベントが大好きで、みんなに幸せとやさしさを届けるため日々ふわりと飛び回っています。

## 地区別計画について

地域では、住民、自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、福祉関係事業者、NPO法人、ボランティア団体などが地域の福祉保健活動に取り組んでいます。

そうした活動団体間の連携促進や行政との協働の推進、地域の生活課題に対して、きめ細かく対応するため、住民が主体となり地区別計画を策定・推進しています。

## 13地区の地図





## 地区別計画策定・推進委員会（会議）

港北区では、連合町内会・地区社会協議会エリアを単位とした13の地区ごとに住民が主体となり地区別計画策定・推進委員会を立ち上げ、地区別計画を策定・推進しています。

地区別計画策定・推進委員会は連合町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、保健活動推進員など、地域の福祉保健活動に関わる団体や関係機関が主体となり構成されています。

### 地区別計画 目次

<b>日吉</b>	光と活力に満ちあふれる日吉 ～一つひとつの活動が光り、大きな活力に発展するまち～
<b>綱島</b>	賑わいと安らぎ 古くて新しいまち 綱島
<b>大曽根</b>	ハートフル大曽根
<b>樽町</b>	思いあいのまち 樽町
<b>菊名</b>	みんなで支えあうまちづくり 菊名地区
<b>師岡</b>	わが町 師岡
<b>大倉山</b>	『あいの町大倉山』[V]-ふれあい・支えあい・助けあい-
<b>篠原</b>	わがまち篠原
<b>城郷</b>	たすけあうまち城郷
<b>新羽</b>	「和・輪・話」のまち にっば
<b>新吉田</b>	いいな！ みんなのまち 新吉田
<b>新吉田あすなろ</b>	明るく 楽しく 支えあう ヒューマンネットワーク あすなろ
<b>高田</b>	みんなが笑顔 助け合いのまち高田

あなたの町は？

港北自治会町内会区域図

で検索！

# 光と活力に満ちあふれる日吉

～ 一つひとつの活動が光り、大きな活力に発展するまち ～

## わたしたちが 目指すまち

- ・ みんな元気で笑顔であいさつするまち
- ・ ひろめよう笑顔たやさず明るいまち
- ・ 新しいとなつかしさがつながるまち
- ・ みんなでたすけあい災害をのりきるまち
- ・ 住んでよかったと思えるまち
- ・ みんなが健康を大事にするまち

### 【地区の概況】

日吉地区は、区の北東部に位置し、川崎市と隣接しています。地区内に大学のキャンパスがあります。東急東横線・東急新横浜線、市営地下鉄グリーンラインの日吉駅、日吉本町駅があります。地区内では共同住宅に住む人が戸建てに住む人よりも多いです。

### 【人口の特徴】

	世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
R6年9月	39,898世帯	78,665人	10,036人(12.8%)	53,562人(68.1%)	15,067人(19.2%)
H31年9月	37,036世帯	73,834人	9,154人(12.4%)	50,297人(68.1%)	14,383人(19.5%)

## 4期計画の振り返り

### ◆ 今までの取組

コロナ禍で活動の制限が余儀なくされる中、何が出来るか、どう活動したらよいかを考え、「地域のつながり作り」のための新たな取り組みとして、

- ・ web会議やオンライン発信による福祉講座の開催、ホームページの開設等ICTを活用した情報発信を行いました
- ・ 地域の団体の活動を応援する新たな助成金制度を設立し、多くの団体の新たな活動の立ち上げや継続の一助としました
- ・ 日吉の福祉を地域の方々に知ってもらうことを目的に、地域にある福祉施設を歩いて回る「ふくふくスタンプラリー」を開催し多くの参加をいただきました

また、地域の新たなつながりづくりを進めながら4期の後半からはコロナ禍で制限・中断されていた活動も少しずつ再開され、地域の各団体とも連携・協力しながら広く活動しています

### ◆ 地域の現状と課題

- ・ 多世代交流の場の充実、活動の担い手の不足、高齢者の見守りの重要性、だれでも気軽に足を運べる居場所づくり（高齢者、子ども、働いている人等）が上げられます
- ・ 地域での活動の情報がより多くの人のもとに届くための情報発信の工夫や、福祉に触れることが出来る、参加できる機会や場所（イベント）を充実させることが必要です

5期計画 6地区地域ケア委員会ごとの目標と具体的な取組

日吉地区  
共通テーマ  
地域のつながりづくりを充実させる

日吉町

『様々な世代が交流する場の充実、顔の見える関係づくりの推進』

- ・情報発信の強化（インターネット等様々な媒体の活用・関係機関との連携）
- ・「なかよし」や「ひよっし」日吉ITサロン」等、地域の子どもの含めた多世代が参画できる交流の場を充実させる
- ・地域の子どもと交流することにより、周囲の大人も地域の活動に興味をもてるようなつながりづくりを考える

日吉宮前

『情報によってつながる地域づくり』

- ・自治会、各種団体の具体的な活動の発信（イベントや興味のある取組等）から地域を知ってもらいきっかけづくりをする
- ・地域の情報に接する機会を増やす（時間やタイミングで効果的な発信方法を考える）

箕輪

『みのわの輪でつくるつながりづくり』

- ・みんなの輪が広がる行事、居場所、見守りを続ける
- ・子育ての応援をする（ひだまりサロン、waiwai みんなの箕輪クラブ等）
- ・災害時要援護者の把握を丁寧に行い、日常の関係づくりから発災時にも支援の輪をつなげる

日吉本町東

『広げよう！！支え合おう！！地域の輪』

- ・日頃から災害時の安否確認の方法を地域で共有し、自治会・町内会の防災訓練等で実践していく（災害時安否確認のタオル訓練の継続・拡大・充実等）
- ・「なごみの会」、「幸齢者の集い」、「コンフォールサロン」等高齢者支援の充実
- ・「ほんちよ」、「赤ちゃん会」等の子育て世代の集いの場の支援と、地域の小中学校との交流

日吉本町西

『いきいきとみんなで住みたいまちづくり』

- ・高齢者のつどいの場のより広い周知と継続
- ・地域の子どもたちの安全と安心のための環境づくり
- ・多世代が交流できる場の構築と取組
- ・災害時の要援護者支援体制の拡充

下田

『みんなが下田のサポーター ～地域の絆で助け合えるまち～』

- ・下田に暮らす一人ひとりが地域のイベントや健康づくりの場を楽しみながら参加するための工夫をする
- ・若い力が活躍できる地域づくりに取り組む

6地区の取組を広く普及啓発します

高齢者  
障害児者  
子育て  
ボランティア  
災害時  
要援護者

第3章

全体での取組



ICTを活用した情報発信



地域の活動を応援する助成金制度の充実



地域福祉の周知のため誰もが活動に参加できるイベントの開催

計画の振り返り方法

6地区のケア委員会の他、自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会等の関係者で構成する日吉地区「ひっとプラン港北」推進委員会を開催し、計画全体の振り返りを行います。

活動に関する問合せ

- ◆ 日吉本町地域ケアプラザ  
TEL.045-566-0360 FAX.045-566-0362
- ◆ 下田地域ケアプラザ  
TEL.045-563-9081 FAX.045-563-9083

「ひっとプラン港北」に関する問合せ

- ◆ 港北区役所福祉保健課事業企画担当  
TEL.045-540-2360 FAX.045-540-2368
- ◆ 港北区社会福祉協議会  
TEL.045-547-2324 FAX.045-531-9561

# 賑わいと安らぎ 古くて新しいまち 綱島

**わたしたちが  
目指すまち**  
(こんな町にしたい)

- ・みんなが育てあい 育ちあい 愛着のあるまち 綱島
- ・だれもが元気で優しく 住みつづけたいまち綱島
- ・防災防犯で安心安全 たすけあいのまち 綱島

## 【地区の概況】

綱島地区は区の東側に位置しています。地区の中央に東急東横線綱島駅があり、南側は鶴見川に面しています。R5年3月18日、東急新横浜線開業とともに新綱島駅が開業しました。現在、新綱島駅周辺の整備と開発が行われています。戸建てに住む人の割合の方が多くですが、共同住宅の建設も続いています。区全体よりも商店街振興の満足度が高い地区となっています。

## 【人口の特徴】

	世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
R6年9月	22,971世帯	45,041人	5,769人(12.8%)	32,261人(71.6%)	7,011人(15.6%)
H31年9月	21,660世帯	43,848人	5,935人(13.5%)	31,117人(71.0%)	6,796人(15.5%)

## 4期計画の振り返り

### ◆ 今までの取組

綱島地区は3つの部会に分かれて取り組みを進めています。「情報・交流部会」では、地域行事について、情報誌の発行やHPでの発信を行い、地域の交流の場を作るため、東西2つに分かれてサロンを開催しました。「子育て部会」では、子育て支援関係者による地域の繋がりづくり、子どもの安全確保に向けた「アンケート」に取り組みました。また、「見守り・支援部会」では災害時に支援を要する方への見守りや防災に向けた取組を進めてきました。

### ◆ 地域の現状と課題

新綱島駅も開業し、交通の便もよく、区内でも子育て世代が比較的多い地区です。また、高齢者世帯が増えています。地域活動に新たに参加する人が少なく、担い手も不足しています。地域の情報を幅広く伝え、地域住民のつながりを広げ、多くの住民に地域の行事や活動等の取組に参加してもらうことが課題です。



「綱島地区自転車安全マップ」の発行



「歌声サロン」の開催



「健康体操」の開催



「防災袋」の配布

## 5期計画の目標

- ・住民同士の顔の見える関係づくりを進めます
- ・子どもたちを地域で見守り、子育てにやさしいまちをつくります
- ・地域活動の中核となる人材を確保します
- ・誰もが参加できる健康づくりの活動を増やします
- ・情報が伝わり、相談しやすい環境づくりを進めます

## 具体的な取組

幅広い世代、様々な状態にある、より多くの住民に地域とつながり、愛着・安心を感じてもらい、地域活動等に参加してもらえるよう、各部会が予定している取組は以下の通りです。

### 【情報・交流部会】

- ① 地域の情報誌「綱島ひっとプランニュース」を発行します
- ② 幅広い世代に向け、情報誌の発行を継続しつつ、SNSの活用等受け手に合わせた情報発信を行います
- ③ 関わる方を増やす取り組みを行いながら、既存のサロンの開催を継続します
- ④ 幅広い年代、様々な状態にある方が集まれる新たな居場所づくりに向けて検討します

### 【子育て支援部会】

- ① 第4期に行った「アンケート」結果を元に、交通安全に関する啓発を行います
- ② 子育て世代に向けて、災害時の避難所の周知、防災意識の啓発・向上を図る取組を進めます
- ③ 綱島地区内の学校や保育施設との繋がりづくりを継続します

### 【見守り・支援部会】

- ① 「防災袋」を活用し、防災・減災に関する啓発活動を継続します
- ② 研修等を通じて、減災・防犯に向けた取組を行います

### 【全体】

- ① 各部会の取組について共有の機会を作ります
- ② 部会の構成等について検討していきます

## 計画の振り返り方法

自治会町内会や地区社会福祉協議会、各活動団体が、計画に基づいて推進を行い、地区別計画推進委員会でその状況を共有します。地区別計画推進委員会は、各活動団体等の代表者で構成し、地区別計画の進捗状況の確認や振り返り、今後の方向性を検討します。

### 活動に関する問合せ

- ◆ 樽町地域ケアプラザ  
TEL.045-532-2501 FAX.045-533-0025
- ◆ 樽町地域ケアプラザ つなしま相談室・つなしま交流室  
TEL.045-534-1220 FAX.045-545-1020

### 「ひっとプラン港北」に関する問合せ

- ◆ 港北区役所福祉保健課事業企画担当  
TEL.045-540-2360 FAX.045-540-2368
- ◆ 港北区社会福祉協議会  
TEL.045-547-2324 FAX.045-531-9561

# ハートフル大曽根



ハートフルくん

ひっとプラン港北の大曽根地区の取り組みを『ハートフル大曽根』と名付け、住民と行政が協働し、地域の問題解決のため活動しています

## わたしたちが 目指すまち

- 交流の盛んなまち
- ささえあいのあるまち
- 安全、安心なまち

いつまでも住みたいまち  
大曽根

### 【地区の概況】

大曽根地区は区の中央に位置しています。東急東横線の綱島駅と大倉山駅の間であり、区内平近よりも戸建てに住む人の割合が多い地区です。

### 【人口の特徴】

	世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
R6年9月	5,640世帯	11,030人	1,281人(11.6%)	7,248人(65.7%)	2,501人(22.7%)
H31年9月	5,456世帯	10,948人	1,236人(11.3%)	7,129人(65.1%)	2,583人(23.6%)

## 4期計画の振り返り

### ◆ 今までの取組

\* 地域の情報発信や交流の場の提供、安全・安心に力を入れてきました。

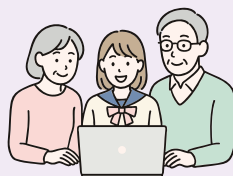


『イベントカレンダー』  
毎年6月ごろ  
各家庭に配布



『ザ・ニュース大曽根』  
毎月回覧板でお届け

ハートフル大曽根ホームページ部リニューアル  
まちの情報・イベントのお知らせや報告を配信中。  
『ハートフル大曽根』で検索!



新着情報等を  
「X」でお知らせ  
しています

防犯カメラや  
初期消火器具  
の設置を進め  
ています



### おおぞねハートフルコンサート

毎年11月に大曽根小学校  
体育館で開催しています  
みんなが楽しめるコンサート  
です



### ◆ 地域の現状と課題

- \* 地域では高齢者向け、子育て世代向け等多くの活動が盛んですが、担い手不足です。
- \* 一人暮らしや夫婦二人暮らしの高齢者が増えており、見守りが必要となってきています。一方で新しい住宅を中心に若い世代も増えており、新旧・異世代の住民交流が課題です。

### 5期計画の目標

- ◎ **行事や活動に多くの方が参加し、交流の盛んなまちづくりを進めます**
  - ・地域の行事や活動を住民に知らせ、多くの方の参加を促し、子どもから高齢の方まで交流できる場を増やします
- ◎ **地域で協力して、穏やかな見守り、ささえあいのあるまちづくりを進めます**
- ◎ **いつまでも住み続けたい、安全、安心なまちづくりを進めます**
  - ・防犯パトロールや登下校の見守り活動を継続し、多くの方の参加を呼び掛けます
  - ・防犯カメラ・初期消火器具の設置を進めます
  - ・災害に備える活動を充実します
- ◎ **これまでの取り組みを継続できるよう団体間の連携やあらたな人材の発掘に取り組みます**

上記の目標に向けて、大曽根自治連合会・地区社会福祉協議会・地区民生委員児童委員協議会・各種委員会・ボランティア団体等がそれぞれ協力し活動しています

### 大曽根地区の主な活動

#### 交流イベント

盆踊り大会  
大曽根八幡神社例大祭  
健民祭  
大曽根みんなの福祉まつり  
おおそねハートフルコンサート



#### 情報発信

大曽根地区イベントカレンダー  
ザ・ニュース大曽根  
ハートフル大曽根ホームページ



#### 安全・安心

下校時パトロール(S隊)  
防犯カメラ・初期消火器具(スタンドパイプ)設置  
ささえあいネットワークの会  
(見守りネットワーク)

地域防災拠点訓練  
町内会防災訓練

#### 高齢者

配食よつ葉会(配食サービス)  
火曜・木曜サロン(デイサロン)  
タどきサロン(夕食会)  
らくらく体操(健康維持)  
花しょうぶ(ミニデイサービス/  
樽町地域ケアプラザにて開催)  
よろず相談サロン  
(スマホや生活に関するお悩み相談)



#### 趣味・健康

折り紙教室  
健康麻雀サロン  
パタンク/グラウンドゴルフ  
OOSONE DIY ワークショップ  
OSONE FUN RUN (大人向けランニングコミュニティ)



#### 子育て・子ども

ランニング教室  
紙ヒコーキ大会

赤ちゃん会  
おおそねちびサロン  
ベビそね  
子ども会



### 計画の振り返り方法

地域で活動するそれぞれの団体が計画に基づいて取り組みを行い、「ハートフル大曽根」事業推進委員会でその情報を共有し、進捗状況の確認、振り返り、今後の方向性の検討を行います。

#### 活動に関する問合せ

◆ 樽町地域ケアプラザ  
TEL.045-532-2501 FAX.045-533-0025

#### 「ひっとプラン港北」に関する問合せ

◆ 港北区役所福祉保健課事業企画担当  
TEL.045-540-2360 FAX.045-540-2368  
◆ 港北区社会福祉協議会  
TEL.045-547-2324 FAX.045-531-9561

# 思いあいのまち 樽町

人の輪がひろがり、  
顔が見えるまち

みんなが助けあい、  
心のふれあうまち

明るく挨拶、声をか  
けあう住みよいまち

## 【地区の概況】

樽町地区は、区の東側に位置しています。北側に鶴見川、南側に熊野神社市民の森があります。東急東横線の綱島駅と大倉山駅の間であり、新綱島駅も開通しました。共同住宅に住む人が区内平均よりも多い地区です。

## 【人口の特徴】

	世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
R6年9月	8,749世帯	18,109人	2,670人(14.7%)	12,709人(70.2%)	2,730人(15.1%)
H31年9月	8,174世帯	17,637人	2,881人(16.3%)	12,410人(70.4%)	2,346人(13.3%)

## 4期計画の振り返りと5期計画の目標

### ● 3期～4期に継続した取組

【住民同士の交流】「移動動物園」、「ふれあいフェスタ（体育祭）」、「歩こう会」等の開催

【子育て支援・高齢者支援】地域食堂「なごみ食堂」、子育て広場「ちびたる」、  
高齢者給食「わかば会」等の開催

【情報発信】「思いあいのまち樽町」（HP）の運営、「イベント掲示板」、「ふくしだより」の発行

### ● 4期から開始した取組

★「たるまち LINE 掲示板」「デジタル掲示板（サイネージ）」を活用した情報発信

★「樽町盆踊り大会」を、しょうぶ公園で開始、「ポッチャ」サークルの立ち上げ

★「樽町ボランティア団体交流会」による地域交流拡大

★「樽町住民アンケート」による生活や暮らしの課題調査

### ● 5期計画の目標

① 関心の高い、防犯、防災への取り組みを進めていきます！

② 「高齢者向けの居場所・カフェ」について、検討していきます！

③ 各イベントにより参加してもらえるように、工夫していきます！

樽町地区福祉保健計画は、地域の住民と団体（樽町連合町内会、樽地区社協等）が港北区と連携して、「誰もが自分らしく安心して暮らせるまち」を目指して策定しています。

「思いあいのまち 樽町」  
これまでの地域の活動



たるまち LINE 掲示板  
友だち募集中→



樽町地区キャラクター  
「たる坊としょうぶちゃん」



樽町移動動物園  
ポニー乗馬はいつも大人気♪



樽町盆踊り大会  
夏の暑気払い



樽町ふれあいフェスタ  
音楽とスポーツの祭典



わかば会  
食膳を囲み弾む笑顔!

2025年4月~2026年3月  
樽町イベント掲示板  
思いあいのまち樽町

イベントの開催内容は変更になる場合がございます。ご参加前にお知らせを御確認ください。  
お問い合わせは、各町会・自治会へお問い合わせください。

イベント名	日時・場所	(予定日)	内容	参加対象
樽町ベタング大会	5/11(日) 8:30~ 親見川緑野公園	5/25(日)	カーリング、ボッチャに似たスポーツで遊んでも楽しめます。	樽町地区内の地域に在住・在勤・在学の方
樽町防災フェア	6/15(日) AM 樽町しょうぶ公園	-	防災について、みなさんと一緒に考えましょう。	どなたでも
樽町盆踊り大会	7/26(土) タワー 樽町しょうぶ公園	7/27(日)	観覧券も出ます。踊り一夜を踊りと音楽で楽しみましょう。	どなたでも
樽町ふれあいフェスタ	10/19(日) AM 樽町中学校	10/20(日)	スポーツと音楽の祭典です。	どなたでも
樽町グラウンドゴルフ大会	11/2(日) 8:30~ 親見川緑野公園	11/3(日)	6人で1チームの対戦戦です。16ホールを楽しく回しましょう。	樽町地区内の地域に在住・在勤・在学の方
樽町移動動物園	3/8(日) 9:00~ 樽町しょうぶ公園	-	浜二集落、ひつじ、やぎのえさやり、小動物とのふれあい、模擬店も。	どなたでも

デジタル掲示板でも樽町の情報を発信しています!  
現在、樽町地域ケアプラザ、静岡コミュニティハウス、親と子の集いの広場、樽町中学校にも設置しています。  
また、大曽根小学校、静岡小学校、網島東小学校にも設置準備中です。

LINE公式アカウント【たるまちLINE掲示板】  
樽町地域の掲示板、お集まりの内容があなたのスマホに届きます!  
まだありません!「樽町のふれあいイベント」欄に3つのイベントの番号を登録してください。  
※2024年度版イベント「愛のまち」で検索  
詳しくは樽町ホームページで「思いあいのまち樽町」で検索

※「思いあいのまちイベント」は港北区のつながり応援事業の助成を受けて発行しています。



樽町歩こう会  
名所や旧跡と一緒に巡る



樽町なごみ食堂  
世代を問わずカレーのタバ



ボッチャ  
どなたも参加大歓迎



防災訓練  
備えあれば憂いなし



ちびたる  
鬼の顔(風船)に豆まき



ひだまり  
絵本の読み聞かせ~手遊び

● 計画の振り返り方法

地域で活動するそれぞれの団体等で取組を進め、地区別計画推進委員会において進捗状況を確認し、振り返りと今後の方向性の検討を行います。

活動に関する問合せ

◆ 樽町地域ケアプラザ  
TEL.045-532-2501 FAX.045-533-0025

「ひっとプラン港北」に関する問合せ

◆ 港北区役所福祉保健課事業企画担当  
TEL.045-540-2360 FAX.045-540-2368  
◆ 港北区社会福祉協議会  
TEL.045-547-2324 FAX.045-531-9561

# みんなで支えあう まちづくり 菊名地区

## わたしたちが 目指すまち

子どもから高齢者まで安心して暮らせるまち  
健康づくりと交流で元気に暮らせるまち  
安全安心に暮らす環境が整うまち

### 【地区の概況】

菊名地区は区の中央部に位置し、オフィス街や商業地である新横浜駅周辺と住宅地である菊名駅周辺が混在します。地区の東側や菊名駅の周辺は丘陵になっています。大倉山駅、菊名駅、新横浜駅が利用され、東急東横線、東急新横浜線、相鉄新横浜線、市営地下鉄ブルーライン、JR 横浜線と東海道新幹線が運行しており、交通利便性が高い地区です。共同住宅に住む人の割合が区内平均よりも高い地区です。

### 【人口の特徴】

	世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
R6年9月	23,988世帯	42,142人	4,215人(10.0%)	29,802人(70.7%)	8,125人(19.3%)
H31年9月	22,106世帯	40,314人	4,309人(10.7%)	28,417人(70.5%)	7,588人(18.8%)

## 4期計画の振り返りと5期計画の方向性

### ◆ 今までの取組

地区内での課題や住環境が異なることから、民生委員児童委員協議会の地区ごとに活動を進めてきました。

すべての地区で高齢者の認知症予防(スリーA)<sup>※1</sup>や、居場所づくり(子育てサロン等)の活動を行い、住民間のつながりづくりを進めました。コロナ禍から、屋外で三密を避けてできるラジオ体操の活動が各地区に広がり、継続しています。

また、3期に作成した生活安全安心メモ<sup>※2</sup>は民生委員の一人暮らし高齢者の訪問で活用していましたが、4期の改訂では町内会や地域の福祉施設等の情報も入れ、全世帯を対象に配布しました。高齢者以外にも緊急時や災害時の備えについて普及啓発をすることに取り組んでいます。

※1 スリーA:「明るく、頭をつかって、あきらめない」の頭文字でスリーA。手遊びや道具を使い、認知症予防を行う。

※2 生活安全安心メモ:災害等もしもの時に備えて、緊急時に必要な情報を書き込めるようにしたもの

### ◆ 地域の現状と課題

コロナ禍で休止していた活動を再開することができましたが、参加人数が減ったままなかなか戻らない活動もあります。次世代の担い手、少し手伝ってくれる人を増やしていく必要がありますが、まずは地域活動やイベントへの参加を増やすために情報発信等の工夫が必要です。

地域全体の課題として、地域住民同士のつながりづくりや誰でも参加できる取組の必要性等があげられます。住民がお互いに見守り合える関係が大切ですが、発災時に備えて平時から地域で生活をしている障害児者とのつながりや見守りが課題です。

5期計画の目標と具体的な取組

共通目標

- ・地域に住む誰もがつながり、参加できる取組を進めます
- ・健幸（康）に安心して住み続けられる取組を進めます

菊名北

- ◆ 菊名北町町内会
- ◆ 大倉山喜久和会

けんこう 健幸（心も身体も健康）に暮らせ、  
困った時に助け合えるまち

- ① 町内会のイベント等多世代交流の取組を拡げます
- ② 一人暮らしの仲間づくりのため、スマホ教室を開催します（LINEの活用）
- ③ 障がい理解を広げる取組のため、事業所・施設等と協力します
- ④ スリーA（認知症予防）、ラジオ体操、読み聞かせの拡大を推進します



【ふれあい交流会】

大豆戸

- ◆ 大豆戸町内会
- ◆ 大倉山ハイム町内会

「おたがいさま」でつながろう

- ① 大人も子どもも、挨拶をする安心なまちづくりをします
- ② イベント等を通じ、障がいがあってもなくても顔の見えるつながりを作り出します
- ③ 頭を使って身体を動かす元気づくりの活動を広げます
- ④ 日頃のつながりで防災に強いまちづくりをします



【茶処ま〜め〜ど】

篠原北

- ◆ 錦が丘町内会
- ◆ 泉ヶ丘町内会
- ◆ 表谷町内会
- ◆ ふじ町内会

積極的に歩こう、発信しよう！

ラジオ体操、歩こう会、スマホ教室、栄養教室等の地域の活動を充実させていきます

- ① 体だけでなく、心の健康のために歩こう
- ② 日にあたる、風にあたる、時には雨にあたることも。体全体で自然を感じよう積極的に外に出かけて、人と触れあう。
- ③ 周囲のことに好奇心を持ち、できれば発信することにチャレンジしよう



【ラジオ体操】

新横浜

- ◆ 新横浜町内会・新横浜自治会
- ◆ アデニウム新横浜自治会

しんみになって  
よろこびをわかちあおう  
こころから

- ① HPや掲示板を用い、在住者に向けた情報発信に力を入れていきます
- ② 子どもから高齢者、障がい者、外国籍の方等多世代にわたる交流を推進します
- ③ 災害を意識したまちづくりを目指します



【盆踊りの練習中】

計画の振り返り方法

4地区ごとに特性に合わせた取組を推進し、自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会等の関係者で構成する菊名地区「ひっとプラン港北」推進委員会を開催し、計画全体の振り返りを行います。

活動に関する問合せ

◆ 大豆戸地域ケアプラザ  
TEL.045-432-4911 FAX.045-432-4912

「ひっとプラン港北」に関する問合せ

◆ 港北区役所福祉保健課事業企画担当  
TEL.045-540-2360 FAX.045-540-2368  
◆ 港北区社会福祉協議会  
TEL.045-547-2324 FAX.045-531-9561

# わが町 師岡

◆ わたしたちが目指すまち

- ・ **地元を思いやる師岡**  
縁あって同じ地域に住む者同士、心地良い距離感で、寄り添って生きていく。
- ・ **他者を思いやる師岡**  
性別・年齢・身体的特徴・経済的な事情などの違いを理解し、自分とは異なる価値観や背景の人がいることを理解する。
- ・ **環境を思いやる師岡**  
限りある資源を効率的に活用し、持続可能な形で循環させながら利用する。
- ・ **未来を思いやる師岡**  
長期的な視点で考える。

詳しくは「🔍わが町もろおか」で検索!

【地区の概況】

師岡地区は区の東側に位置している地区で、北側と南側は丘になっており、地区の中央を環状2号線が通っています。最寄りの鉄道駅は大倉山駅です。戸建てに住む人が区内平均と比較して多い地区です。

【人口の特徴】

	世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
R6年9月	4,932世帯	10,476人	1,392人(13.3%)	6,843人(65.3%)	2,241人(21.4%)
H31年9月	4,844世帯	10,503人	1,404人(13.4%)	6,957人(66.2%)	2,142人(20.4%)

## 4期計画の振り返り

◆ 今までの取り組み

4つの分科会を3グループに再編して居場所の開設、折紙教室、映画鑑賞会等を始めた矢先にコロナ感染が広がり大人数が集まるイベントは中止されましたが、少人数の活動は感染対策をしながら続けました。オンラインを導入するなど工夫しましたが参加者は少しずつ減りました。

パソコン教室やスマホ教室は、人気で続けました。

コロナ感染が収束に向かったので、10年ぶりに福祉まつり(わあいわあい広場)を復活させました。

また、居場所で人気があった「健康マージャン」を師岡町会館で始めました。

師岡小学校学童の子どもたちが、師岡町会館で地域の皆さんにダブルダッチを披露しました。防災拠点訓練も、地域の皆さんが一丸となって取り組みました。



学童の子ども達のダブルダッチ



師岡小学校の地域防災拠点訓練



わあいわあい広場



師岡地区のたくさんの活動

## 地域の現状と課題

- ・30代～50代の若い担い手が人口割合に比べて、参加比率が少ないと分析  
この世代が参加し易いように、募集・育成方法について見直す。
- ⇒知っているのに参加しないのか、知らないから参加しないのか？  
⇒後者ではないかと考える。

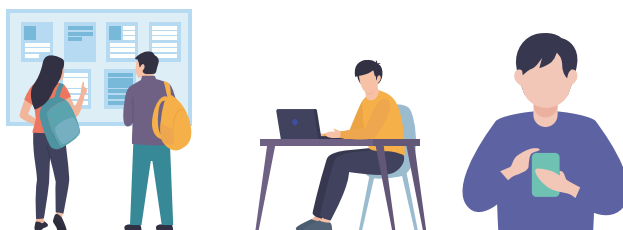
## 5期計画の目標

⇒まず最優先は、ITを利用した情報伝達を整えて、情報が広く行き渡るよう計画する

## 具体的な取組

### 1年目 情報伝達を整える LINE・インスタの導入計画作成

- ・検討チームの発足
- ・スケジュール作成
- ・予算計画
- ・導入計画
- ・利用ポリシーの作成



### 2年目 導入目標 1,000人

- ・第一回 新規活動応援コンテスト（仮） 公募開始 応募目標 1件

### 3年目 導入目標 2,000人

- ・第一回 新規活動応援コンテスト（仮） 実行 振り返り
- ・第二回 新規活動応援コンテスト（仮） 公募開始 応募目標 2件

### 4年目 導入目標 3,000人 + 30～50年代の担い手 目標 4名

- ・第二回 新規活動応援コンテスト（仮） 実行 振り返り
- ・第三回 新規活動応援コンテスト（仮） 公募開始 応募目標 3件

### 5年目 30～50年代の担い手 目標 10名+学生担い手（師岡小学校、樽町中学校）目標 10名

## 計画の振り返り方法

地域で活動するそれぞれの団体等で取組を進め、地区別計画推進委員会において進捗状況を確認し、振り返りと今後の方向性の検討を行います。

### 活動に関する問合せ

◆樽町地域ケアプラザ  
TEL.045-532-2501 FAX.045-533-0025

### 「ひっとプラン港北」に関する問合せ

◆港北区役所福祉保健課事業企画担当  
TEL.045-540-2360 FAX.045-540-2368  
◆港北区社会福祉協議会  
TEL.045-547-2324 FAX.045-531-9561

# 『あいの町大倉山』【V】

- ふれあい・支えあい・助けあい -

## わたしたちが 目指すまち

- ・住民一人一人がつながり、互いに助け合うことができるまち 大倉山
- ・すべての住民が新旧の別なく世代を超えて「ふれあい・支えあい・助けあい」、いざという時にも強いまち 大倉山
- ・住民みんなが積極的に地域活動に参加することで築く、健康で住み良いまち 大倉山
- ・地域の力で緑化活動を推進し、桜と草花と緑にあふれたまち 大倉山
- ・高齢者が社会参加する場を設け、健康で充実感のある生活を送れるまち 大倉山

### 【地区の概況】

大倉山地区は区の中央に位置しており、地区の東側に東急東横線大倉山駅があります。西側は鶴見川に面し、北東側は丘陵地になっています。地区内では共同住宅に住む人が戸建てに住む人よりも多いです。

### 【人口の特徴】

	世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
R 6 年 9 月	12,471 世帯	25,345 人	3,140 人 (12.4%)	16,939 人 (66.8%)	5,266 人 (20.8%)
H31 年 9 月	12,128 世帯	25,332 人	3,467 人 (13.7%)	16,892 人 (66.7%)	4,973 人 (19.6%)

## 第 4 期計画の振り返り

### ◆ 今までの取組

子育て支援・青少年の健全育成・健康づくり・高齢者支援等の6つの社会福祉協議会の部会活動や、地域の交流イベントを実施してきました。また地域活動の方向性を定めるために「大倉山夢まちづくり実行委員会」を設立し、町内会・商店街・地域の団体が一体となって住み続けたい町づくりを進めながら、積極的な防災対策を構じています。

「花と緑の町づくり」活動では、各町会や地区内の公園に花壇を創設し、町会・社協・民児協・シニアクラブが連携して町全体での取り組みを常時行い、憩いの場・交流の場を拡充しています。

### ◆ 地域の現状と課題

共働き世代住民の増加に伴う子育て支援や、児童の見守り活動の充実を図ることが求められるとともに、ますます増加傾向にある高齢者への支援活動をさらに充実させる必要があります。大倉山の住民誰もが世代や新旧を問わずつながり合って、安心して健康で住み良い地域になるような町づくりを目指します。

## 第5期計画の目標

- ・高齢者は健やかに、子育て中の方は安心して暮らせる、住みごちの良いやさしい町づくりを進めるとともに、青少年にとって健全な環境づくりを推進します
- ・新旧の住民及び世代を超えた地域住民の交流活動を行い、地域の絆を強めていきます
- ・地域の団体が主催する交流活動に協賛または協働で取り組み、地域を活性化させます
- ・多くの住民が防災を含めたあらゆる活動に参画できるように、地域の情報を積極的に発信します
- ・「花と緑の町づくり」活動をより強力に推進していきます

## 具体的な取組

### ・子育て支援活動



子育てサロンの開催

### ・青少年の健全育成活動

- ・学校・地域・家庭の3つの代表者が密に連携・協力し、地域の子どもたちの健全育成のために何を行うかの検討と提言
- ・子ども110番の家の有効な活動を推進
- ・少年少女相撲大会の活動後援



### ・災害時要援護者支援の取組



要援護者支援対象者をカードで整理

### ・高齢者・障がい者支援活動



高齢者への家事支援



高齢者向けの茶話会・サロンの開催



元気づくりステーションの開催



障害者施設の自主製品を地域イベントで販売

### ・地域住民の交流活動



支えあいまつり



さくらまつり



ウォーキング



グラウンドゴルフ等の交流会

### ・地域団体への支援活動



子育て支援拠点：どろっぴデー



大倉山商店街：ハロウィン



街角大倉山ミエル：シニアサロン



シニアクラブ：「花と緑」の活動

### ・地域への情報発信

- ・大倉山ホームページ
- ・「大倉山のふくし」を年2回発行
- ・ちらしや掲示板での行事のお知らせ
- ・大倉山子連れお出かけマップの発行

## 計画の振り返り方法

毎月1回開催の「大倉山夢まちづくり実行委員会」にて行います。委員会の構成メンバーは連合町会・地区社協の理事・商店街理事長・地域各団体の代表者となっています。各活動団体へのアンケートを行うことで、地域の活動を見直しています。

### 活動に関する問合せ

◆大豆戸地域ケアプラザ  
TEL.045-432-4911 FAX.045-432-4912

### 「ひっとプラン港北」に関する問合せ

◆港北区役所福祉保健課事業企画担当  
TEL.045-540-2360 FAX.045-540-2368  
◆港北区社会福祉協議会  
TEL.045-547-2324 FAX.045-531-9561

# わがまち篠原

わたしたちが  
目指すまち

安全で安心して暮らせるまち

ひとりひとりが つくる 篠原

子どもも大人も いきいき 篠原

みんなで 声をかけ合う 篠原

しのはら 港北地区社協 検索

※「篠原地区社会福祉協議会」をクリックすると篠原地区の活動情報をご覧いただけます。

## 【地区の概況】

篠原地区は区の南部に位置し、地区内には東急東横線の妙蓮寺駅、市営地下鉄ブルーラインの岸根公園駅があり、菊名駅や新横浜駅にも近い位置にあります。戸建てに住む人の割合が区内平均よりも多い地区です。

## 【人口の特徴】

	世帯数	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳以上
R6年9月	21,328世帯	41,858人	4,731人(12.4%)	27,805人(66.4%)	9,322人(22.3%)
H31年9月	20,168世帯	41,135人	4,906人(13.7%)	27,124人(65.9%)	9,105人(22.1%)

## 4期計画の振り返りと5期計画の方向性

### ◆今までの取組

- ・高齢者から障がい者、そして子育て世代まで、幅広く各活動グループを支援
- ・各活動グループのヒアリングを実施
- ・食の支援活動として「フードドライブ」拠点を2ヶ所に開設
- ・休刊していた広報紙「しのはら」を装いも新たに再刊

### ◆地域の現状と課題

共同募金や賛助会費の減少に伴い、区社協からの補助金が年々減っています。高台に並ぶ住宅街を中心に細道や坂道が多いために、高齢者の移動が困難になってきています。移動支援の検討や新たな活動拠点の開拓が必要です。担い手不足も課題で、広く自治会との連携を深めて人材の発掘が急がれます。

### ◆今後の方向性

活動団体への支援を継続し、誰もが参加できる場を提供します。地域のニーズを確認して活動を見直すとともに、新たな担い手を発掘します。広報活動を通じて地域イベントへの参加を促し、篠原地区の住民同士の顔が見える関係をつくります。



## 5期計画の取組目標

### 1. 活動団体への支援を継続し、誰もが参加できる場を提供します

#### ① 高齢者支援



しのはら人生一服亭



ミニデイサービス  
(各自治会)



さわやか交流会

篠原福祉  
ネットワーク



スマホ教室

しのはら相談室

オレンジ♥しのはら



ルンルンロコモ  
体操教室



ゆっくり歩幸会



#### ② 障がい者支援

コーヒーフレンド  
しのはら



とも・とも篠原

#### ③ 子育て支援



しのはらランド  
COCO しのはら



子ども会(10団体)

子育てサークル(4団体)

NPO 横浜子育て  
支援グループぽっけ



子育てサロン  
らっこ

### 2. 地域のニーズを確認し、既存の活動を見直します

- \* 埋もれた地域の課題を掘り起こす
- \* 新たな活動拠点の開拓
- \* 移動支援とお休みどころ(ベンチ)の検討

#### ④ その他

しのはら  
おはなしの会



### 3. 新たな活動を応援し、担い手の発掘に繋がります

- \* 新規事業の公募
- \* 地域住民の交流の推進
- \* 新たな担い手や幅広い世代のボランティア人材の開拓

フードドライブ



仲よし食堂

### 4. 地域の皆様の参加を促し、顔の見える関係をつくりま

- \* ホームページや広報紙を活用した情報発信
- \* 地域のイベントや活動を紹介
- \* 災害時の住民の自助共助の備えを促す



篠原地区社協について

【地区社協ホームページ】

### 計画の振り返り方法

地域で活動するそれぞれの団体等で取組を進め、地区別計画推進委員会において進捗状況を確認し振り返りと今後の方向性の検討を行います。

#### 活動に関する問合せ

◆ 篠原地域ケアプラザ  
TEL.045-423-1230 FAX.045-423-1257

#### 「ひっとプラン港北」に関する問合せ

◆ 港北区役所福祉保健課事業企画担当  
TEL.045-540-2360 FAX.045-540-2368  
◆ 港北区社会福祉協議会  
TEL.045-547-2324 FAX.045-531-9561

# たすけあうまち城郷

## わたしたちが 目指すまち

- ・世代や立場を越えた交流が「ひろがるまち城郷」
- ・担い手が広がり、活動が「つながるまち城郷」
- ・助け合いや支援の輪が「とどくまち城郷」
- ・必要な情報が伝わり、相談しやすい「安心のまち城郷」

### 【地区の概況】

城郷地区は区の南西部に位置し、JR 横浜線小机駅、市営地下鉄ブルーラインの岸根公園駅があります。地区の東側は新横浜駅の都心地区に隣接しており、北側は鶴見川に接する平地で農園も残っています。地区の一部は市街化調整区域になっています。南側は起伏のある丘で、樹林地が残る住宅市街地になっています。戸建てに住む人の割合が区内平均よりも多い地区です。

### 【人口の特徴】

	世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
R6年9月	12,212世帯	24,331人	2,792人(11.5%)	16,178人(66.5%)	5,361人(22.0%)
H31年9月	11,586世帯	24,025人	2,971人(12.4%)	16,068人(66.9%)	4,986人(20.8%)

## 4期計画の振り返り

### ◆今までの取組 「地域活性」「子育て」「見守り」の3つの分科会に分かれて活動しました

#### 地域活性化分科会

- ・地域の居場所である「ホッとカフェ」の運営支援、「クローバー会」や「濱なかま」の活動を支援しました
- ・新たな地域の居場所として「町カフェ」の立上げや運営を支援しました
- ・介護予防や認知症予防等、健康増進に関する活動を推進しました
- ・「地域活動団体交流会」を実施し、地域の活動団体同士のネットワーク構築、強化を図りました



【地域活動交流会の様子】

#### 子育て分科会

- ・子育てマップの改訂版を配布しました
- ・子どもの交流の場として小学校低学年向け「あそびBA しろさと」を新たに開催しました
- ・ボランティアとして近隣の中高生の協力を得ました
- ・「たまりBA こづくえ」や「しろさと放課後プラザ」等、子どもの居場所づくり活動を支援しました



【あそびBA しろさとの様子】

#### 見守り分科会

- ・障がい理解を深めるために、障がい理解講座を開催しました
- ・見守りネットワーク活動を進める「地域支えあい連絡会」との連携を検討しました
- ・日頃の見守り支えあい活動について情報共有を行いました



【障がい理解講座の様子】

#### 共通

- ・紙媒体とデジタル技術を併用し、様々な情報発信方法を検討しました

### 地域の現状と課題

- ・必要な人に必要な情報を届けるために従来のチラシや新しいデジタル技術の併用をしていく必要があります
- ・世代交代により活動を終了する団体もある一方、新たな活動団体も増えています。次世代を担う中高生の活動参加もありましたが、全体的に考えると担い手の高齢化や一部の方の負担が大きくなっている状況です。引き続き、新たな担い手の発掘・確保に力を入れるとともに活動を進める中核的存在が必要です
- ・地域活動を通して住民同士の交流の機会は増えています。地域に拠点となる居場所も出来てきました。今後は、誰もが身近に集える場や機会を増やしていくことが必要です

## 5期計画の目標と具体的な取組

### 1 地域住民誰もが安心して暮らせるまちを目指します

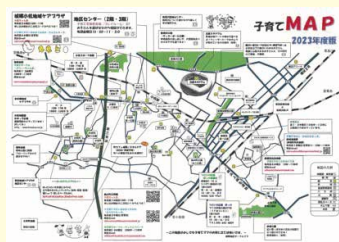
- 【取組】
- ①障がい児者への理解を進める取組を進めます
  - ②認知症予防や認知症を正しく理解する取り組みを進めます
  - ③防災・防犯に関する勉強会を開催します



発行：城郷地区社会福祉協議会・たすけあうまち城郷推進委員会  
発行：城郷地区子育てサークル・子育てリロン『おあそびなあれ』2023.11

### 2 子育て中の世代が安心して暮らせるまちづくりを推進します

- 【取組】
- ①子育てサロンへの支援を継続します
  - ②あそびBAしろさとの活動を継続します
  - ③しろさと放課後プラザへの支援を継続します
  - ④たまりBAこづくえへの支援を継続します
  - ⑤子育てマップの周知と活用を進めます



### 3 地域住民が互いに交流を深め、「顔の見える関係づくり」を進めます

- 【取組】
- ①ホットカフェや町カフェ等の地域の居場所を支援します
  - ②クローバー会やとりやまの郷等、介護予防・認知症予防・健康増進の各サロンの活動を支援します
  - ③防災・防犯のための取組を通して人々の関係づくりをします

### 4 地域活動に関わる人材を増やします

- 【取組】
- ①人材確保のための周知を推進します
  - ②やりたい気持ちを大切に、地域活動に関わる仕組みづくりを進めます

### 5 必要な人に必要な情報が伝わり、相談しやすい環境づくりを進めます

- 【取組】
- ①地域活動の「見える化」と「普及啓発」を進めます
  - ②地域活動団体の交流と連携強化を進めます
  - ③受け手に合わせた情報発信をします



推進体制：第5期は分科会の構成を見直し、以下の3分科会に分かれて活動します。地域の関係者と連携しながら取組を推進します



## 計画の振り返り方法

定期的に「たすけあうまち城郷」推進委員会を開催し、各分科会の進捗状況の確認をします。年度ごとに振り返りを行い、今後の方向性を検討します。

### 活動に関する問合せ

◆ 城郷小机地域ケアプラザ  
TEL.045-478-1133 FAX.045-478-1155

### 「ひっとプラン港北」に関する問合せ

◆ 港北区役所福祉保健課事業企画担当  
TEL.045-540-2360 FAX.045-540-2368  
◆ 港北区社会福祉協議会  
TEL.045-547-2324 FAX.045-531-9561

# 「和・輪・話」のまち につば

## わたしたちが 目指すまち

### 絆のまち につば

高齢者が楽しく元気に活動できるまちにしよう  
 住んでいる人どうし、支え合うまちにしよう  
 一人ひとりが地域のことに関心を持つまちにしよう  
 子どもが大人になっても住み続けたいまちにしよう  
 お互いにあいさつをし、みんなで明るく安心できるまちにしよう

#### 【地区の概況】

新羽地区は区の西側に位置しています。地区の中央を南北に市営地下鉄ブルーラインが通り、新羽駅と北新横浜駅の2駅を擁し、高速神奈川7号横浜北線の新横浜出入口も設置されており、交通の利便性が高いことから、住宅地だけでなく、工場や倉庫の立地も見られます。地区の西側には丘陵が広がり、公園、畑、山林、竹林が点在しています。共同住宅に住む人の割合が区内平均と比較して多い地区です。

#### 【人口の特徴】

	世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
R6年9月	7,067世帯	13,328人	1,278人(9.6%)	9,438人(70.8%)	2,612人(19.6%)
H31年9月	6,575世帯	13,110人	1,553人(11.8%)	8,979人(68.5%)	2,578人(19.7%)

## 4期計画の振り返り

### ◆ 今までの取組

4期計画は3つの部会で下記のような具体的な取り組みを進めてまいりました。

#### ① 健康づくり部会

グラウンドゴルフ、ポールウォーキング等による身体の健康づくり、大竹うたの会、菜園収穫体験での心と体の健康づくりを通じて地域の活性化を進めました。

#### ② 情報発信部会

ICTの活用と理解のために隔月3部会で集まり勉強会等を開催しました。Google Meetを使ったビデオ会議の体験等を行い、新たな会議形式を知る機会となりました。新羽地区の情報が集まる場、発信する方法を検討しています。

#### ③ 住民交流部会

写真撮影会や料理教室を開催して地域交流の場づくりを行いました。3部会合同で地域企業の協賛を得てクイズラリーを実施しました。緑道整備の場を子ども達の遊び場として「新田緑道みちあそび」を開催しました。

### ◆ 今後の方向性

今後の活動に向け、地域の声を知るためにインターネットや紙面でアンケートを実施しました。町内会、地域ケアプラザ等まちの協力を得て意見を集めることができました。

5期は広く地域の方に参加いただけるよう、アンケートの結果を踏まえ「レクリエーション」「防災」「情報発信」の3つの柱で取組を進めます。

### 5期計画の目標

- ・新羽の魅力を多くの住民に伝えます
- ・地域でできる見守り、支えあいの取り組みを進めます
- ・地域ぐるみで子どもを育み、子どもたちのふるさとづくりを進めます
- ・大地震や水害等に向け、「自助」「共助」「公助」の意識を地域の皆様と共に育みます
- ・気軽に行くことができる場や機会を増やし、自宅に閉じこもりがちな方の参加を呼びかけます
- ・高齢者や障害者などへの理解を深める活動を進めます
- ・参加できる場の情報が多くの方に届くようホームページ等の発信を続けます

### 具体的な取組

#### これまでの地域の活動

住民交流部会



みちあそび

情報発信部会



ふれあい写真撮影会

健康づくり部会



じゃがいも苗植え～収穫



大竹うたの会

これからの活動に向けて、アンケートを実施し、たくさんの地域の声が集まりました。集まった声から、第5期ひっとプラン港北（令和8～12年度）の活動の3つの柱が決まりました。

#### これからの地域の活動

レクリエーション

防災

情報発信

第5期ひっとプラン港北の活動の3つの柱としてさまざまな取組・活動を計画していきます。

### 計画の振り返り方法

地域で活動するそれぞれの団体等で取組を進め、地区別計画推進委員会において進捗状況を確認し、振り返りと今後の方向性の検討を行います。

### 新羽地区のまちのイベントや情報

【新羽地区連合自治会】で検索  
メールアドレスは [rengou-info@nippacho.com](mailto:rengou-info@nippacho.com)



#### 活動に関する問合せ

◆新羽地域ケアプラザ  
TEL.045-542-7207 FAX.045-531-7011

#### 「ひっとプラン港北」に関する問合せ

◆港北区役所福祉保健課事業企画担当  
TEL.045-540-2360 FAX.045-540-2368  
◆港北区社会福祉協議会  
TEL.045-547-2324 FAX.045-531-9561

# いいな！ みんなのまち 新吉田

わたしたちが  
目指すまち

地域とのつながりを大切に  
みんなが手をつなぐまち 新吉田

～支えあい 明るく安心して暮らせるまち～  
～世代間の交流 話し合いができるまち～  
～なかよく健康にすごせるまち～

## 【地区の概況】

新吉田地区は区の北西部にあり、早淵川と鶴見川に面しています。地区の一部は市街化調整区域になっています。第三京浜道路の都筑出入口も設置されています。地区の東側は戸建てが多く、マンションも点在し、工場等の企業拠点がありません。西側は起伏の激しい丘陵地で、農地や樹林地が残ります。

## 【人口の特徴】

※人口・世帯数等の統計データは新吉田あすなる地区と共通です

	世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
R6年9月	13,470 世帯	28,711 人	3,687 人 (12.8%)	18,275 人 (63.7%)	6,749 人 (23.5%)
H31年9月	12,920 世帯	28,455 人	3,807 人 (13.4%)	17,905 人 (62.9%)	6,743 人 (23.7%)

## 4期計画の振り返り

### ◆今までの取組

#### 子育て支援

- 子育てサロンを運営し、地域の輪が広がっています。第2木曜日中央町内会館にて「よしだっこ」、第3木曜日に新生町会館にて「フリースペースよしだっこ」を開催し、多い時には40組を超える親子が参加し盛況です

#### 高齢者への支援

- 「さがしてネット」の取組では、認知症行方不明高齢者捜索模擬訓練に加え、小中学校の保護者にも広報をしています
- 一人暮らし高齢者の火災予防の呼びかけや住宅防火チェックリストを活用し個別訪問にて、啓蒙活動を行ってきました。高齢者・要援護者への支援カードとして、状況把握と災害時の共助のあり方の検討と推進をしています

#### 災害時要援護者への支援

- 令和5年度に取組み状況調査を実施し、ほとんどの自治会町内会で要援護者支援が自主防災組織活動として確立、進展していることが確認できました。
- 毎年、災害時要援護新規対象者への意向確認実施時期に合わせて独自のポスターを作成、周知・啓発を行うことにより、要援護者支援事業の理解促進、活動の円滑化、日頃の備えへの意識醸成を図りました

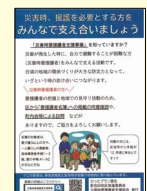
#### 健康づくり

- 心と体の健康づくりの推進のため「やすらぎ塾」を開催しています。2か月に1回の茶話会で班活動の企画を決め、ウォーキング、ものづくり、朗読劇等活発に班活動を行っています
- 新規メンバー募集のためにやすらぎ塾だよりを3回発行し、第4期中に登録メンバーが100人を越えました。メンバー内でもSNSを用いて交流をし男性の参加者も増えています

### ◆今までの取組

大規模災害に備えて継続的な住民の防災意識の向上への取組が必要です。また、実際に災害が発生した場合に、実効性のある支援体制・協力体制を構築することも必要です。

住民のみなさんが地域を知り子どもから高齢者まで多くの方の健康づくりや多世代交流が図られるよう、誰もが参加できる新吉田地区内を巡るウォーキングイベントの企画を検討していきます。



## 新吉田地区の活動と今後の取組

子育て支援、健康づくり部会では、これまでの取組を継続させていきます。高齢者支援、災害時要援護者支援については、統合し啓蒙活動等に取り組んでいきます。新たに、災害時の備えをテーマに、災害時に備えた自助・共助の意識醸成に向けた取り組みをはじめます。

### 子育て支援

安心して子育てができる  
まちを目指します

#### 主な取組

- ・子育てサロン「よしだっこ」「フリースペースよしだっこ」の運営
- ・リーフレット等を活用した親子への周知
- ・支援の輪の拡大（担い手確保）



【子育てサロン「よしだっこ」クリスマス会の様子】

### 健康づくり

「やすらぎ塾」を通して心と  
体の健康づくりを推進します  
特に高齢期の男性の  
地域参加を促していきます

#### 主な取組

- ・ウォーキング、健康麻雀、男の料理教室、朗読劇等  
ごとに定期的に活動を行う
- ・活動の周知



【朗読劇班】

### 災害時の備え

地域住民の自助・共助による  
防災意識の向上を目指します

#### 主な取組

- ・地域防災拠点（指定避難所）等の避難所の周知
- ・在宅避難の周知、災害時に備えたローリングストックの推奨
- ・被害想定等の啓蒙活動



【防災意識向上のための取組】



### 高齢者の支援

高齢者や要援護者が安心して  
暮らせるまちづくりを進めます

#### 主な取組

- ・さがしてネット 認知症等行方不明高齢者  
捜索模擬訓練、小中学生の保護者への広  
報活動、連絡拠点への啓蒙活動
- ・一人暮らし高齢者の火災予防
- ・高齢者や災害時要援護者支援に関する  
周知啓発



【さがしてネット 模擬訓練】

## 計画の振り返り方法

4部会での取組に加えて、町内会・自治体、地域福祉活動団体の代表者で構成した推進委員会を年2回開催し、進捗状況の確認、振り返り、今後の方向性の検討を行います。

#### 活動に関する問合せ

◆ 新吉田地域ケアプラザ  
TEL.045-592-2151 FAX.045-592-0105

#### 「ひっとプラン港北」に関する問合せ

◆ 港北区役所福祉保健課事業企画担当  
TEL.045-540-2360 FAX.045-540-2368  
◆ 港北区社会福祉協議会  
TEL.045-547-2324 FAX.045-531-9561

# 明るく 楽しく 支えあう ヒューマンネットワーク あすなる

わたしたちが  
目指すまち

顔の見えるまちづくりをめざします

- ・だれもが安心して安全に生活できるまち
- ・みんなで支え合えるまち
- ・元気で活力のあるまち



あすなるくん

## 【地区の概況】

新吉田あすなる地区は区の中央部にあり地区の東側・北側に早淵川、南側に鶴見川が接している住宅地です。戸建てに住む人の割合が区内平均と比較して多い地区です。

## 【人口の特徴】

※人口・世帯数等の統計データは新吉田地区と共通です

	世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
R6年9月	13,470世帯	28,711人	3,687人(12.8%)	18,275人(63.7%)	6,749人(23.5%)
H31年9月	12,920世帯	28,455人	3,807人(13.4%)	17,905人(62.9%)	6,743人(23.7%)

## 4期計画の振り返り

### ◆今までの取り組み

- ・防災訓練を継続し、防災についてより多くの人知ってもらうため、地域住民の方にも訓練に参加してもらうよう取り組みました
- ・地域住民同士の交流を進めるため、これまでのイベント内容を工夫し、「あすなるふれあい夏祭り」や「あすなるスポーツフェスティバル」等を開催しました
- ・認知症高齢者の徘徊（ひとり歩き）を早期に発見し、事故なく保護する「さがしてネット」の活動に取り組んできました
- ・あわせて、新田中学校の生徒を対象に「認知症サポーター養成講座」を行い、認知症への理解をはぐくみ、助けあう関係性をつくっています



あすなるふれあい夏まつり



さがしてネット模擬訓練

### ◆地域の現状と課題

- ・鶴見川流域に位置し、河川氾濫の危険が高い地域です。一人一人が風水害に備える必要があります
- ・若い世代の転入が増加傾向にあり、地域とのつながりづくりや未来を担う人材の育成が必要です
- ・高齢化率が高く、単身者の増加もあり、支援が必要な高齢者が増えています

## 5期計画の目標

- ・みんながひとつにつながるためのコミュニティづくりをします
- ・災害に備えた取組を充実させます
- ・健康づくりなどの様々な活動を支援し、住民同士の交流を進めます
- ・より多くの人がお互いに助け合い、地域での見守りにつなげます

## 具体的な取組

## (1) 災害に向けた取り組み

- ・自治会町内会と民生委員との連携により、災害時要援護者の共有や見守りを進めます
- ・要援護者からの意思表示がわかるような取組を、自治会町内会単位で進めます
- ・より多くの方が風水害の危険を理解できるよう、防災講座や拠点訓練を通じて情報を発信します

一人分の生活スペースの広さを確認中



【地域防災拠点訓練】

## (2) 住民同士の交流

- ・屋外や少人数での活動についても検討し、健康づくりやサロンの活動を継続します
- ・運動会等の多世代が交流する機会をつくります。また、地域全体で若い世代を巻き込んだ取組を促進します
- ・掲示板・回覧板・LINEなどのツールの活用とともに、若い世代へ情報が届くような仕組みを検討します

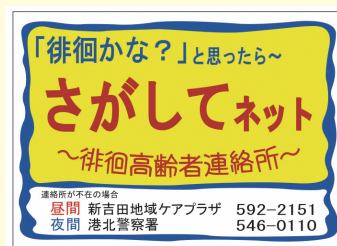
誰でも参加できる競技で楽しむ



【運動会】

## (3) 地域での見守り

- ・「さがしてネット」の活動を様々な世代に周知・啓発します
- ・中学生を対象とした「認知症サポーター養成講座」を開催し、地域での見守りの輪を広げます
- ・地域防災拠点訓練などで、障害の理解を深めるための取組を継続して行います



## 計画の振り返り方法

自治会町内会や地区社会福祉協議会、福祉活動団体等の代表者で構成する推進委員会を定期的に開催し、事業の実施や推進状況の確認を行います。また、必要に応じて委員会を設置します。

## 活動に関する問合せ

◆ 新吉田地域ケアプラザ  
TEL.045-592-2151 FAX.045-592-0105

## 「ひっとプラン港北」に関する問合せ

◆ 港北区役所福祉保健課事業企画担当  
TEL.045-540-2360 FAX.045-540-2368  
◆ 港北区社会福祉協議会  
TEL.045-547-2324 FAX.045-531-9561

# みんなが笑顔 助け合いのまち高田

## わたしたちが 目指すまち

- ・お互いさまの気持ちで広げる助け合い
- ・同世代の交流や世代間の交流を進め、  
いっそう活気のあるまちにしよう
- ・思いやりと支え合いの心で、気軽に地域活動に参加してみよう

### 【地区の概況】

高田地区は区の北西部に位置し、川崎市と隣接しています。地区の北側の一部は市街化調整区域になっています。市営地下鉄グリーンラインの高田駅があり、戸建てに住む人の割合が区内平均と比較して多い地区です。駅近くにショッピングモール、コミュニティハウスができ、買い物や地域の活動が便利になっています。

### 【人口の特徴】

	世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
R6年9月	9,314世帯	18,641人	2,239人(12.0%)	11,918人(63.9%)	4,484人(24.1%)
H31年9月	8,914世帯	18,570人	2,259人(12.2%)	11,762人(63.3%)	4,549人(24.5%)

## 4期計画の振り返り

### ◆今までの取組

新型コロナウイルス感染症による制限も解かれ、高田地区のイベントを各自治会・町内会や関係団体の協力を得て実施しました。また、小冊子「水害への備え」の作成・配布、地区の運動会を「たかた防災ふれあい祭り」にリニューアルし、地区内の商業施設等と連携した避難訓練を実施する等、災害時要援護者支援を含めた防災に注力しました。

地区社会福祉協議会では、地域で活動している団体が横の繋がりを持てるよう、高田地区地域活動団体懇談会等により、顔の見えるネットワーク作りに努めました。

### ◆地域の現状と課題

ひとり暮らし高齢者が増えてきている反面、その方々を見守る役割を担う人材不足が顕著になっています。令和6年度に高田地区で活動している団体へアンケートを行い、多くの団体で活動を支える担い手や参加者・運営資金の不足の状況と、地域を取り巻く環境の変化についても改めて明らかになりました。

一方、幅広い世代の住民が活動や交流を行う拠点として、たかたコミュニティハウスが令和7年度に開所し、新たな活動拠点が増えました。



たかたコミュニティハウス

### ◆今後の方向

- ・連合町内会と地区社会福祉協議会が連携を深め、福祉活動の情報配信を強化します。
- ・活動をシンプル化し、民生委員だけではなく、世代問わず地域住民が広く関わるような福祉活動の展開ができる地域を目指します。
- ・高田地域ケアプラザ・たかたコミュニティハウスとも、より深く、密な関係を築きます。

5期計画の目標

- ・支援が必要な人を把握し、日頃から見守っていき、地域のネットワークで支えます
- ・地域活動への参加と交流を通じて、顔の見える関係づくりを進めます
- ・子どもたちと地域のつながりを深め、まちぐるみで子育てを支えます

具体的な取組

高田地区ネットワーク

高田町連合町内会

高田町内会・高田中央町内会・高田町親和会  
高田東町会・高田町住宅自治会・高田町住宅親交会  
自治会しらさか・高田西原自治会

防犯・防災活動や住民相互の親睦、みんなの居場所づくりに取り組んでいます。ひっとプランでは自治会町内会ごとに災害時要援護者支援に取り組み、要援護者の把握や、日常的な見守り活動を行っています。

高田地区社会福祉協議会

高齢者、子ども、障害者の方々とその活動団体の声を聞く機会を設ける等、地域の福祉活動団体同士のネットワークづくりを行っています。

家庭防災員

地域防災の担い手として活躍するため、研修を受け、活動をしています。

民生委員児童委員協議会

地域において住民の立場に立って、赤ちゃんから高齢者まで世代を問わず相談に応じています。また必要な支援が受けられるよう、地域の専門機関とのつなぎ役も担っています。75歳以上高齢者世帯の見守り訪問事業や高齢サロン・障害児者支援・子育て支援事業等にも参加しています。

高田消防団

災害発生時の消火活動、救助、避難訓練等の他、防災訓練等の啓発活動を行っています。

保健活動推進委員会

地域における健康づくりの推進役として、各種研修を受け、ウォーキングや健康測定、筋力体操、コグニサイズ（認知症予防）等の活動をしています。健診、検診の受診の大切さを働きかけしています。

明るい選挙推進協議会

選挙に関する啓発活動を行っています。

青少年指導員協議会

「青少年の健全な育成」を願い、パトロールやあいさつ運動、ペットボトルロケット製作講習会、自然体験教室等のイベントを行っています。

環境事業推進委員

ゴミの分別排出の啓発や、地域の美化活動に取り組んでいます。

スポーツ推進委員連絡協議会

地域のスポーツ振興を目的に、港北駅伝大会をはじめ子どもから高齢者まで楽しめるスポーツでペタンク大会・グラウンドゴルフ大会等を開催し、スポーツ普及・育成活動を推進し、健全な町作りに取り組んでいます。

たかた  
コミュニティ  
ハウス

高田地域  
ケアプラザ

高田コミュニティカフェ  
ゆずの樹

子育てネットワーク

親と子のつどいの広場  
「たかたんのおうち」

高田小学校  
高田東小学校  
高田中学校

みんなの居場所  
「ふらっと高田」



高田地区キャラクター  
たかたん

計画の振り返り方法

地域で活動するそれぞれの団体等で取組を進め、地区別計画推進委員会において進捗状況を確認し、振り返りと今後の方向性の検討を行います。

活動に関する問合せ

◆ 高田地域ケアプラザ  
TEL.045-594-3601 FAX.045-594-3605

「ひっとプラン港北」に関する問合せ

◆ 港北区役所福祉保健課事業企画担当  
TEL.045-540-2360 FAX.045-540-2368  
◆ 港北区社会福祉協議会  
TEL.045-547-2324 FAX.045-531-9561

## 地域活動に参加したくなったら

### どうなってる？ 横浜市のご近所づきあい

- 横浜市に住む人の半数近くは、隣近所と「道であれば挨拶ぐらいする」(48.2%)ようなつき合いをしています。
- 「一緒に買い物に行ったり、気の合った人と親しくしていたり」(4.7%)、「困ったとき、相談したり助け合ったりする」(4.4%)など『比較的親密なつき合い方』をしている人は1割近くいます。
- 近所の人「顔もよく知らない」と答える人も徐々に増えている(平成25年9.2%→令和5年14.1%)現状もあります。

(横浜市市民意識調査より)

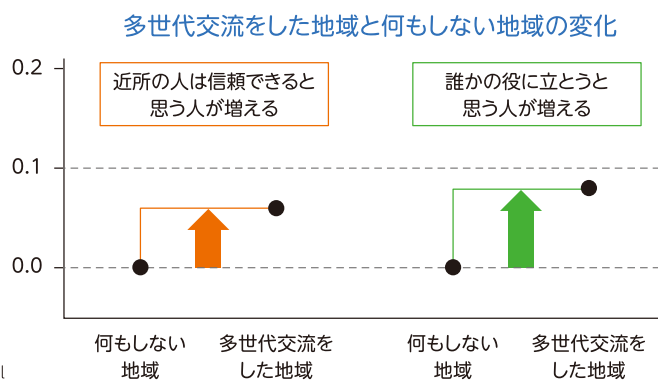


人と人とのつながりは、健康によい影響を与えることが明らかになっています。「地域のつながり」は、ソーシャルキャピタルとも言われ、「地域の力」「住民の底力」ともあらわされ、さまざまなメリットがあります。

自分もまちも元気になるつながりづくりを、出来ることからはじめてみませんか？

研究では多世代交流(あいさつ運動、多世代交流の場の設置、住民ボランティアの養成等)を行うことによって、活動に関わりのない住民にまで波及効果が見られました。地域まるごとの住民同士のつながりを構築、強化できる可能性があります。

出典:東京都健康長寿医療センター研究所  
「多世代交流を促す地域づくりアプローチにより地域全体のソーシャルキャピタルが改善」を元に制作  
<https://www.tmgijg.jp/research/release/2022/1020.html>



近所との信頼関係が  
深まるんだね！



地域福祉保健計画の  
マスコットキャラクター「ちふくちゃん」

助け合いのまちづくりに  
つながるんだね！



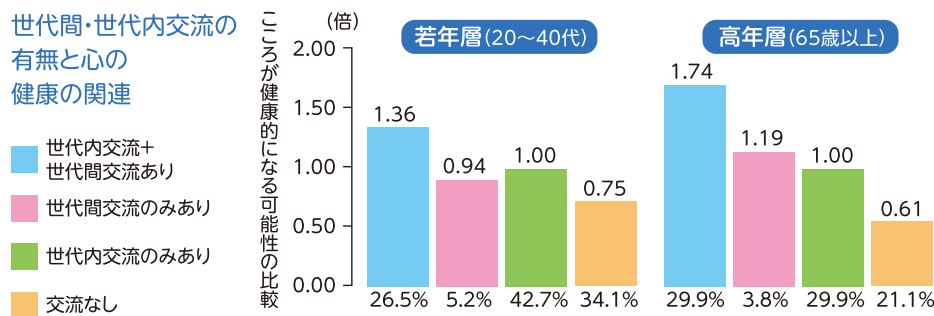
## 世代を超え、様々な立場の人がつながる地域活動

子どもから高齢者、様々な立場の人が交流を深めながら活動することは、楽しいと同時に、高齢者の社会参加や認知症予防、子どもの社会性の習得や、孤独解消にも役立ちます。また、多様な人々や団体と関わり、ともに活動することで、お互いの理解や活動の広がりにもつながります。

### 多世代交流の心の健康への効果

若年層、高齢層のいずれも、同世代でのつながりと世代を超えたつながりの、両方を持つ人が最も精神的に健康であることがわかっています。

世代間・世代内交流の有無と心の健康の関連



数値が高い人ほど、心が健康になる可能性が高いんだね！



根本裕太・藤原佳典他 日本公衆衛生雑誌(2018)

出典:東京都健康長寿医療センター研究所「世代を超えた助け合いのあるまちづくりで「個人とまちを元気に!」を元に制作 <https://www.tmg Hig.jp/research/publication/cat/>

引用:横浜市健康福祉局発行「自分も元気!地域も元気!~住む人もまちも元気になる だれもが活躍できるまちづくり~」

### 地域の活動に関する問合せ

ケアプラザ名	TEL	担当地区
日吉本町地域ケアプラザ	045-566-0360	日吉
下田地域ケアプラザ	045-563-9081	日吉
樽町地域ケアプラザ	045-532-2501	綱島、大曾根、樽町、師岡
樽町地域ケアプラザ (つなしま相談室・つなしま交流室)	045-534-1220	
大豆戸地咸ケアプラザ	045-432-4911	大倉山、菊名
篠原地域ケアプラザ	045-423-1230	篠原
城郷小机地域ケアプラザ	045-478-1133	城郷
新羽地域ケアプラザ	045-542-7207	新羽
新吉田地域ケアプラザ	045-592-2151	新吉田、新吉田あすなろ
高田地咸ケアプラザ	045-594-3601	高田

### ボランティアをしたい、ボランティアをお願いしたい、相談したい

港北区社会福祉協議会ボランティアセンター TEL 045-547-2238

### 自治会町内会について知りたい、加入したい

港北区役所地域振興課 TEL 045-540-2234

### 何か始めたい、区民活動の情報が知りたい

港北区区民活動支援センター  
TEL 045-540-2246

### 「ひっとプラン港北」に関する問合せ

港北区役所福祉保健課事業企画担当  
EL 045-540-2360 FAX 045-540-2368

港北区社会福祉協議会  
TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561



©港北区ミズキ

# ご近所を支えている委員等として一緒に活動してみませんか？

※活動ごとに募集期間は異なります。

## 民生委員・児童委員 主任児童委員

地域の身近な福祉の相談相手として、  
区民の皆さんと関係機関を「つなぐ」役割を担っています。



横浜市版民生委員・  
児童委員キャラクター  
「よこはまミンジー」



見守り



訪問活動

## スポーツ推進委員

地域に根ざしたスポーツ・レクリエーション事業の企画・  
立案・実施並びに普及活動などを行っています。



ペタンク大会



グラウンドゴルフ大会

## 保健活動推進員

地域の健康づくりのリーダーとして、各地区でのウォーキング  
イベントや健康測定会など様々な活動を展開しています。



ウォーキングイベント



健康測定会



## 青少年指導員

地域ぐるみの青少年健全育成を図るため、青少年の自主活動とその育成活動を推進しています。



ペットボトルロケット大会



自然体験教室

地域活動したくなったらこちら

あなたの近くの地域活動を検索！

## ヨコハマ地域活動・サービス検索ナビ

アクセスはこちらから

横浜 地域活動ナビ

検索

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/fukushi-kaigo/koreisha-kaigo/care-system/chiikinavi.html>



防犯パトロール中

# 参考資料

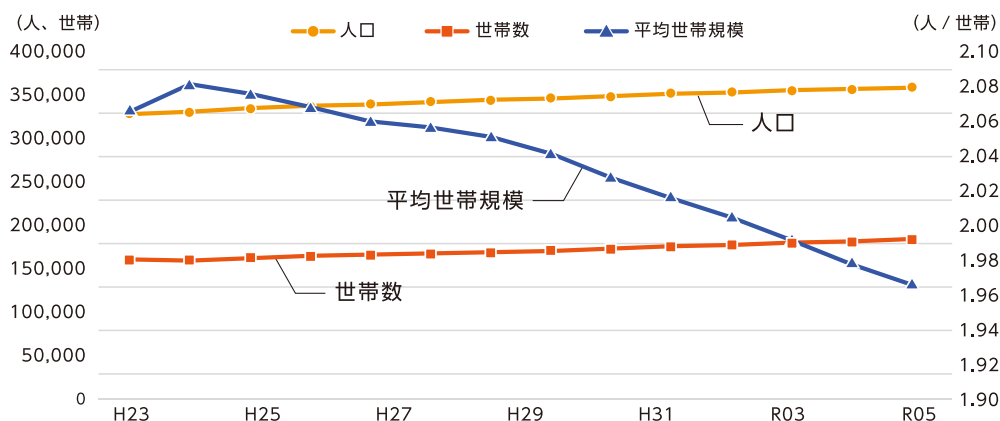
## 1 データ集

### 【人口統計】

#### (1) 人口・世帯数は緩やかな増加が続いている

20歳代の転入増加によって、人口、世帯数は緩やかな増加が続いています。同時に一人世帯の増加によって、平均世帯規模が縮小する傾向も続いています。

図1 人口、世帯数、平均世帯規模の動向



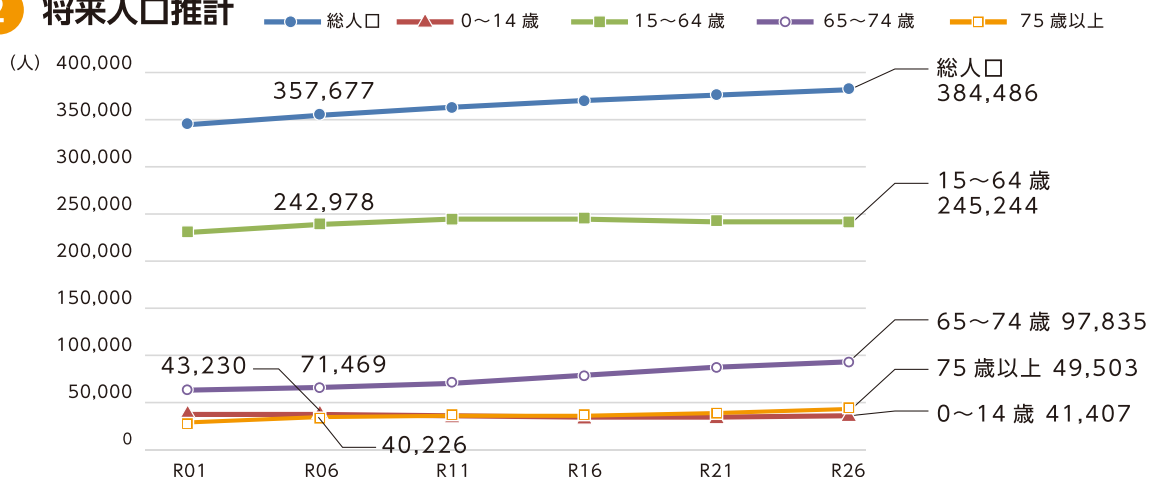
出典：港北区資料

表1 人口動向

	平成 31 年	令和 6 年	平成 31 年 平均比率 (%)	令和 6 年 平均比率 (%)	令和 6 年 市平均比率 (%)
人口総数	347,711	357,677	100.0	100.0	100.0
0～14 歳人口	43,882	43,230	12.6	12.1	11.2
(内 0～5 歳)	18,778	16,650	5.4	4.7	4.5
15～64 歳人口	235,057	242,978	67.6	67.9	62.5
(内 20～24 歳)	20,091	20,093	5.8	5.6	5.4
(内 25～39 歳)	75,597	77,215	21.7	21.6	17.4
65 歳以上人口	68,772	71,469	19.8	20.0	25.1
(内 65～74 歳)	33,941	31,243	9.8	8.7	10.5
(内 75 歳以上)	34,831	40,226	10.0	11.2	14.6

出典：港北区資料

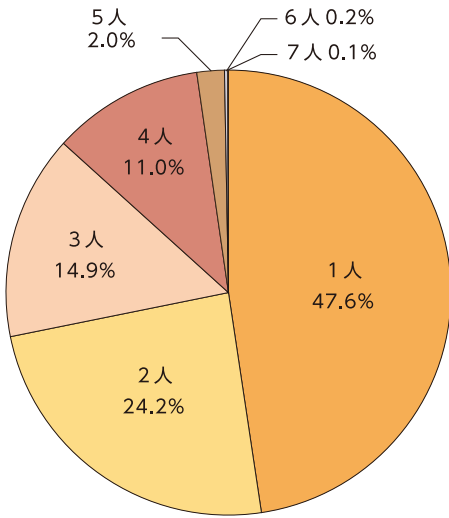
図2 将来人口推計



出典：港北区資料

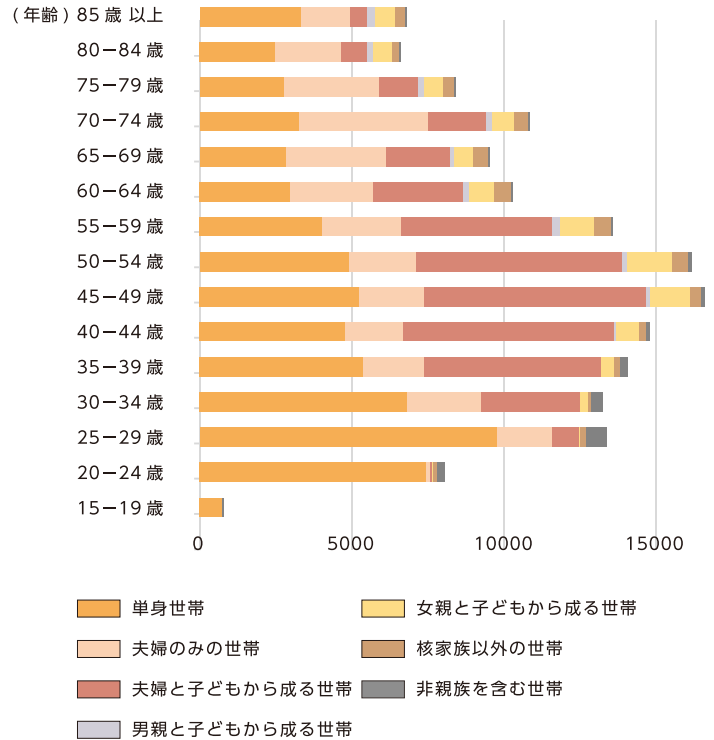


**図3 世帯における人数  
(世帯数の割合)**



出典：港北区資料

**図4 世帯主の年齢ごとの家族構成**

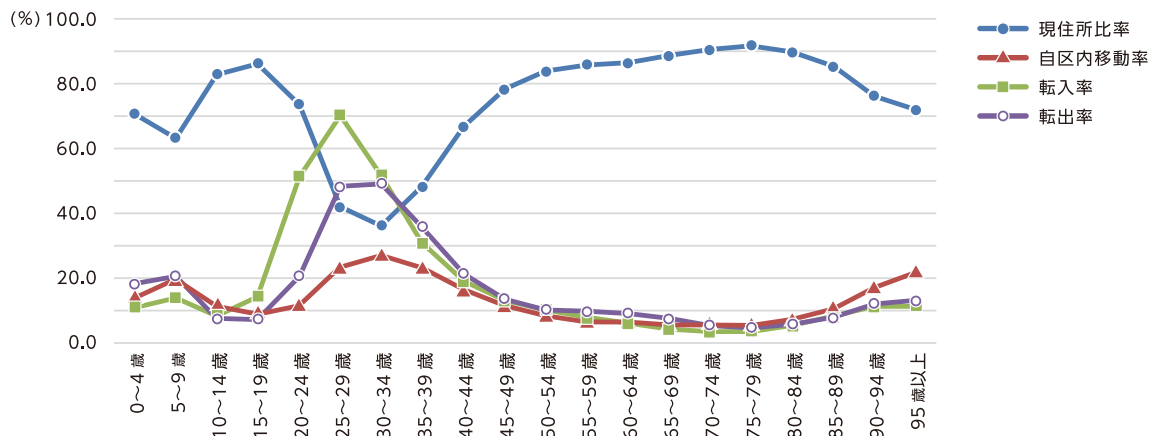


出典：港北区資料

## (2) 転出入が活発

20歳代が活発に転入する状態が続いています。一方、子育て世代が子どもとともに区外に転出する動きも見られます。20～30歳代が活発に転入し転出することによって、区民の年齢構成の高齢化が抑止されている面があります。

**図5 移動人口の年齢別比率** ※平成27年から令和2年の5年間で転出、転入、区内移動した人の年齢5歳別の割合

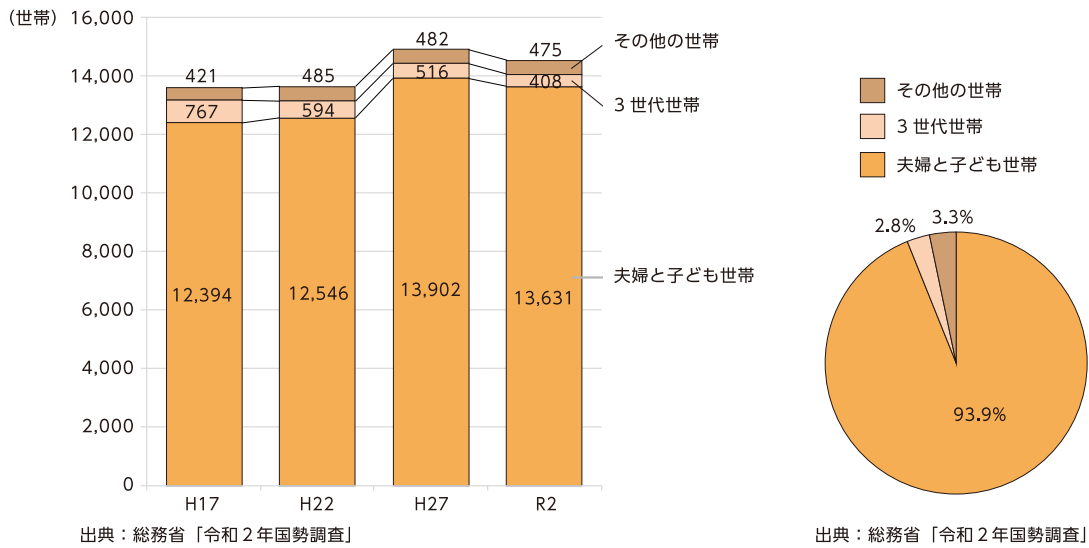


出典：総務省「平成27年、令和2年国勢調査」

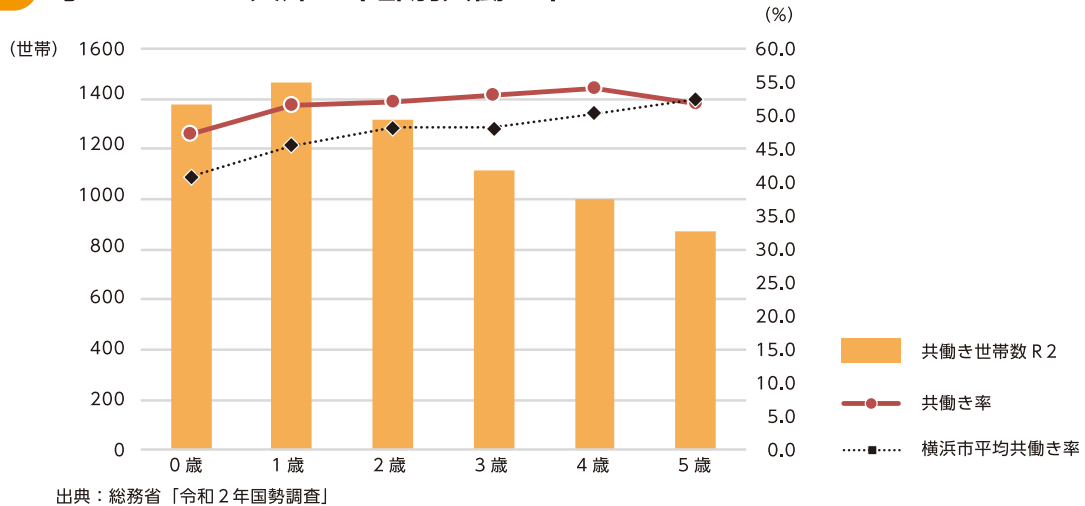
## (3) 子育て世代が多く、共働き率は高い

港北区の令和6年の出生数は2,855人で市内第1位ですが、年々減少傾向にあります。6歳未満の子どもがいる世帯のほとんどが核家族世帯となっています。共働き率は横浜市の平均よりも高くなっています。

**図6 6歳未満の子どもの暮らし方**



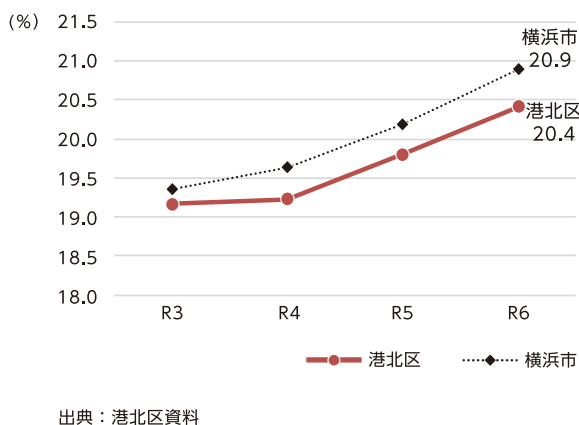
**図7 子どものいる夫婦の年齢別共働き率**



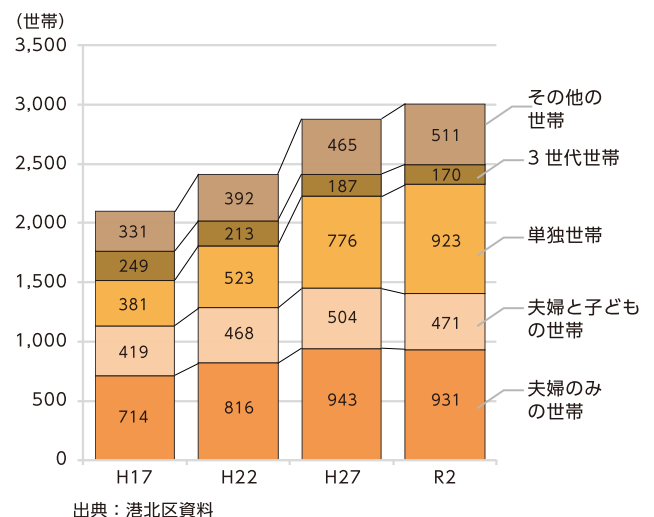
**(4) 高齢者数が増加している**

高齢者の比率は令和6年9月末時点で約20%、横浜市と比べて比率は低いですが、高齢者の人口は71,500人です。特に支援の必要性の高まる75歳以上の高齢者の数も増えています。

**図8 65歳以上における介護認定者数の比率**



**図9 高齢者の暮らし方**

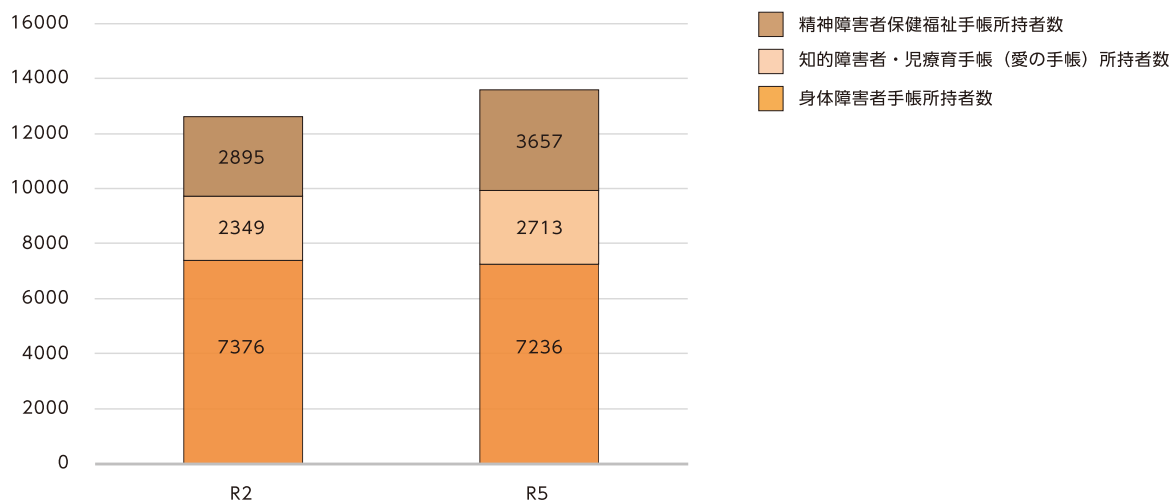




## (5) 障害者手帳の所持者数が増加している

区内で障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）を持っている方は増えています。内訳を見ると、特に療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所得者数の増加が大きくなっています。

図 10 障害者手帳所持者数の動向

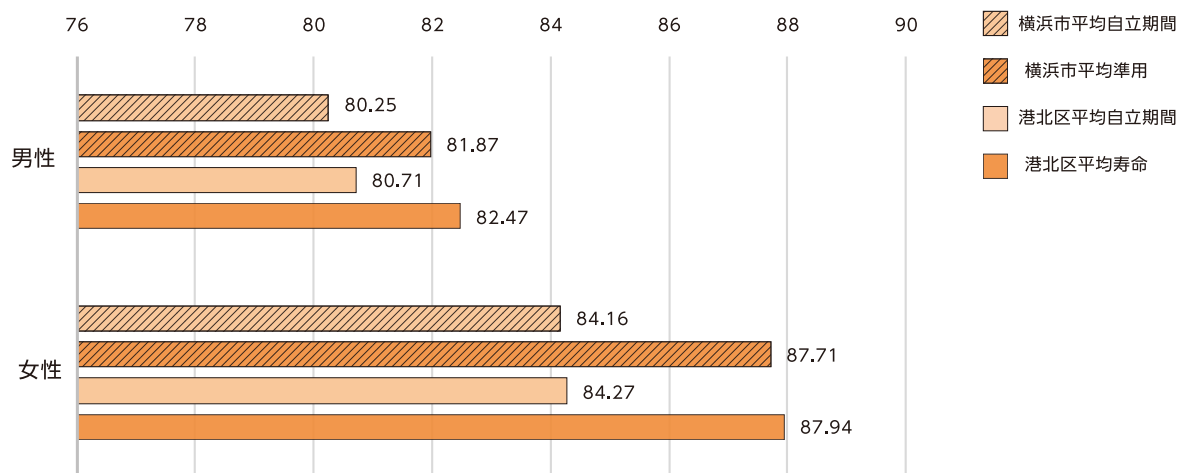


出典：港北区資料

## (6) 平均寿命、平均自立期間は市平均より長い

区民の平均寿命は男性82.47歳、女性は87.97歳、平均自立期間は男性は80.71歳、女性は84.27です。男女ともに横浜市平均よりも長いものの、統計的に確定できる差ではないとされています。

図 11 平均寿命と平均自立期間



出典：横浜市健康福祉局「第3期健康横浜21」

## 2 区民意識調査

### 【区民意識調査について】

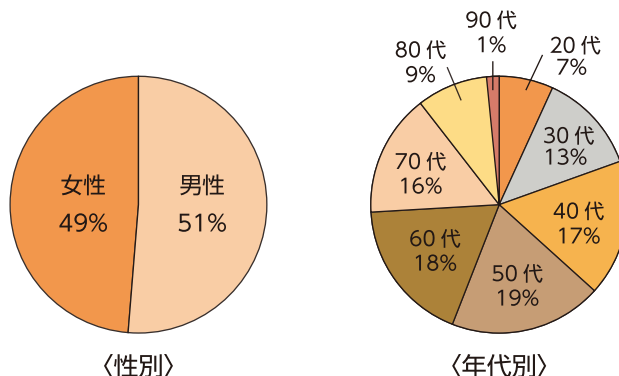
令和5年10月に港北区福祉保健計画推進のため、区民の健康づくりや福祉に関する意識や行動についての状況を把握し、区民の特性に応じた事業展開を図ることを目的に調査を実施しました。

#### 1 調査の方法の概要

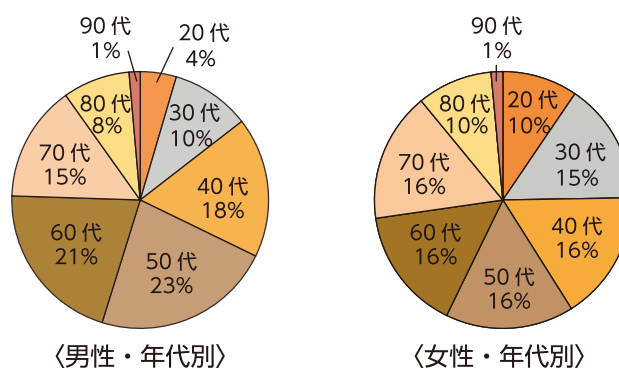
- (1) 調査対象：港北区に居住する20歳以上の男女
- (2) 調査方法：郵送（無作為抽出）、ウェブ（インターネットモニター）
- (3) 回収数：1,550件（郵送：550件、ウェブ：1,000件《回収率45.8%》）
- (4) 調査期間：令和5年10月6日（金）～令和5年10月20日（金）

#### 2 回答者の属性

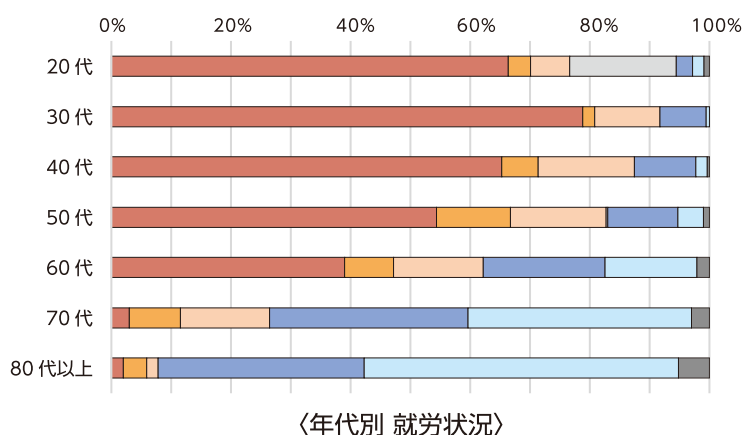
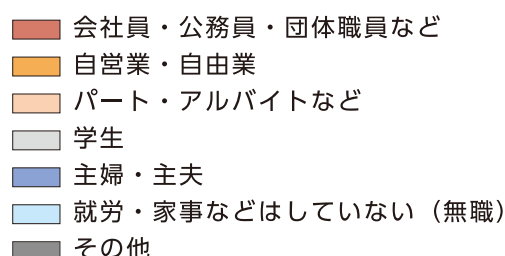
- (1) 男女比：ほぼ同率。  
年代：50代が最も多い。



- (2) 性別・年代別：  
40～60代では男性の回答が多く、  
その他の年代では女性の回答が多い。



- (3) 就業状況：  
60代では常勤労働者は大きく減少するが、約6割が何らかの形で就業しており、70代でも3割近くが就業している。

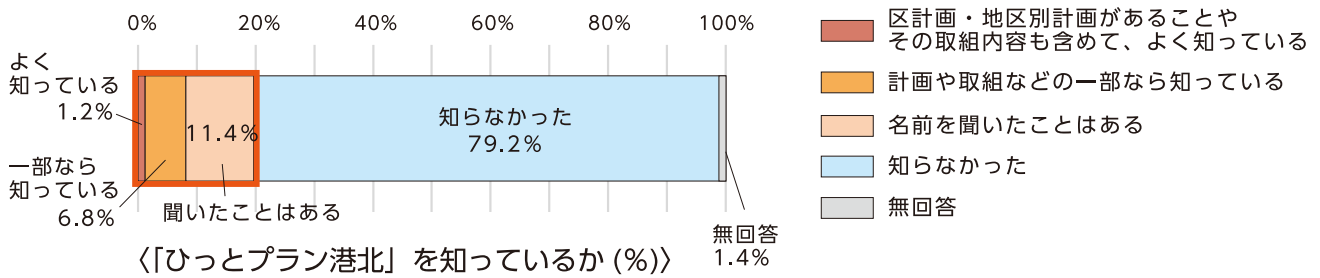




### 3 調査結果（一部抜粋）

#### (1) ひっとプラン港北について

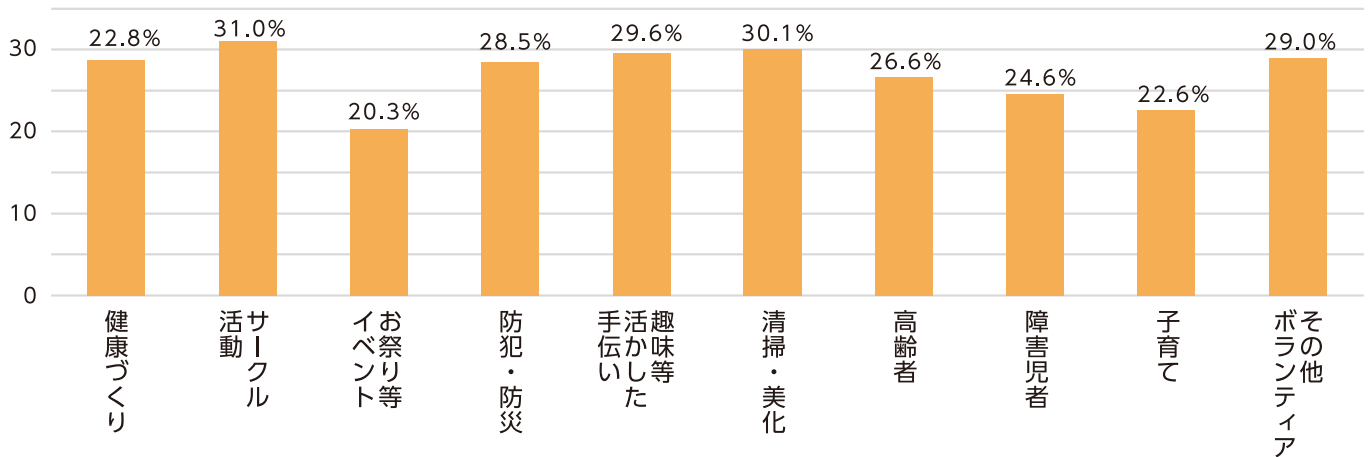
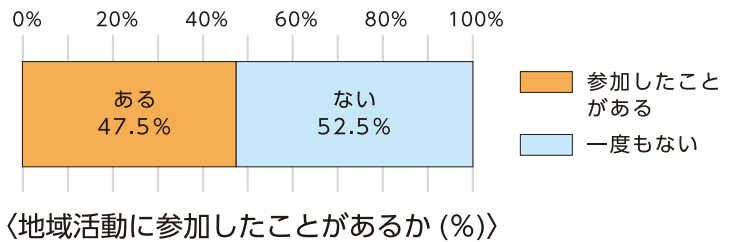
・「ひっとプラン港北」の認知度は約2割



#### (2) 地域活動について

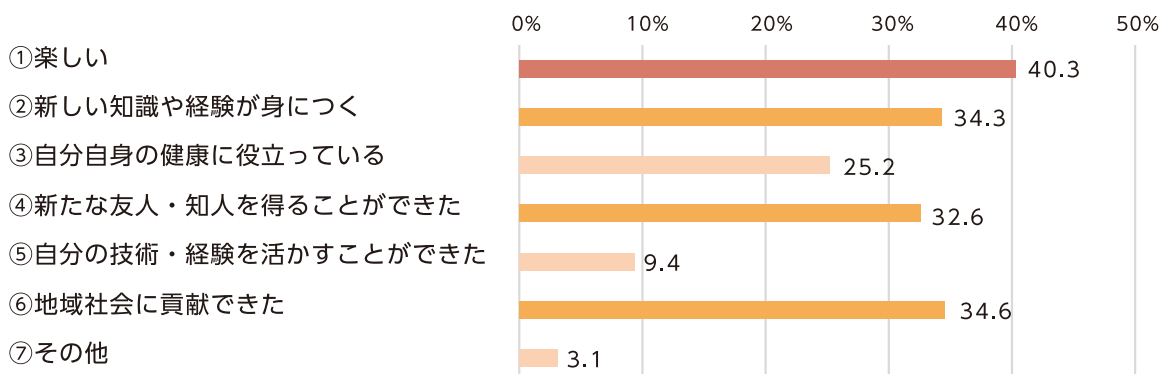
・「地域活動へ参加したことがある」は、約5割

・「今まで参加したことはないが今後参加したい」は2割から3割



〈地域活動の参加について、「今まで参加したことはないが、今後参加したい」 (%)〉

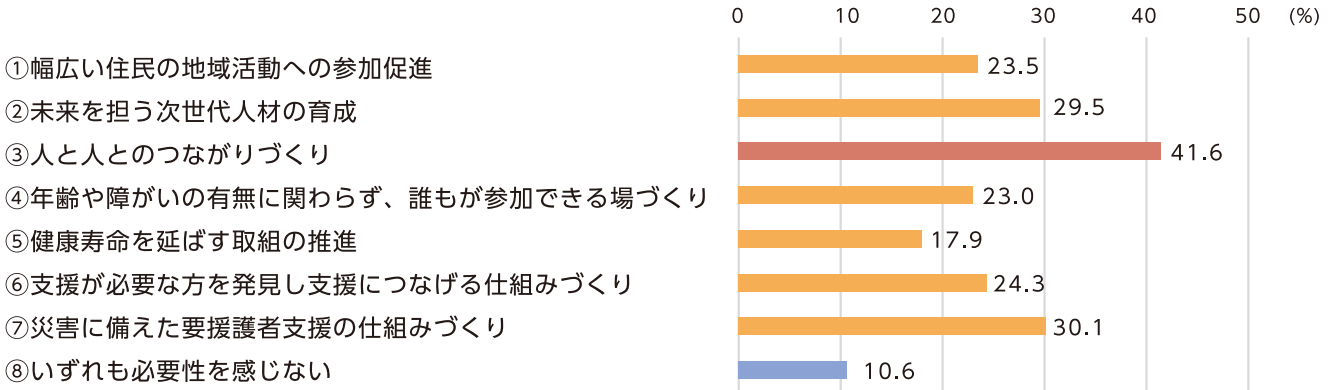
・地域活動に参加してよかったことは、「楽しい」約4割、「新しい知識や経験が身につく」「地域社会に貢献できた」「新たな友人・知人を得ることができた」約3割



〈地域活動に参加してよかったことは (%)〉

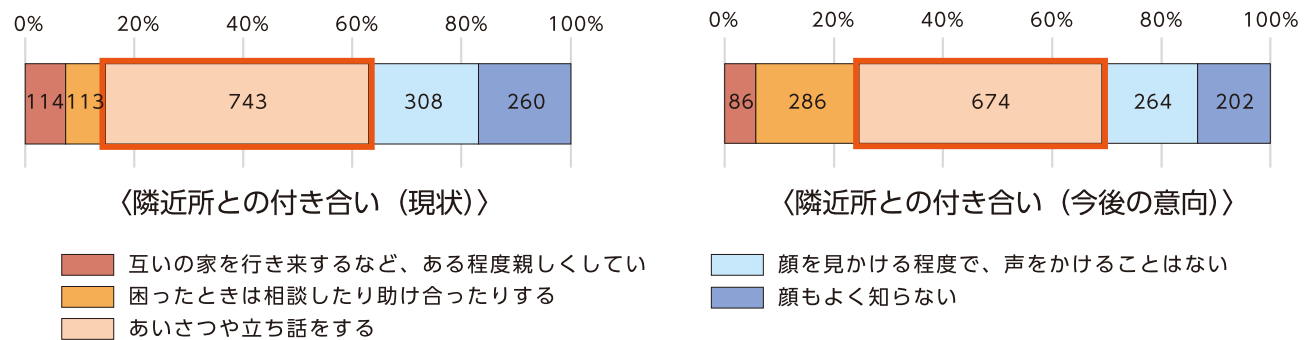
### (3) 港北区において特に必要と考える取組

・「人と人とのつながりづくり」が最も多く、2番目は「災害に備えた要援護者支援の仕組みづくり」、3番目が「未来を担う次世代の育成」。



〈港北において特に必要と考える取組は (%)〉

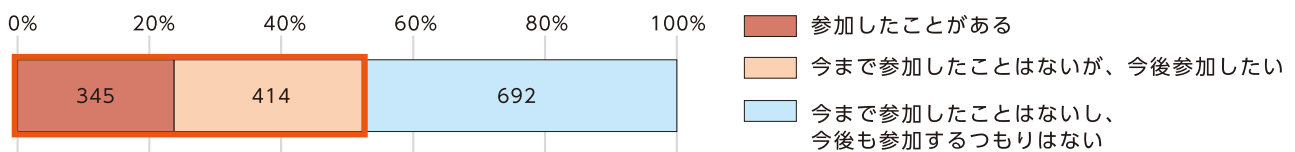
・隣近所との付き合いについては、現状も今後の意向もともに、「あいさつや立ち話をする程度」が約5割。



〈隣近所との付き合い (現状)〉

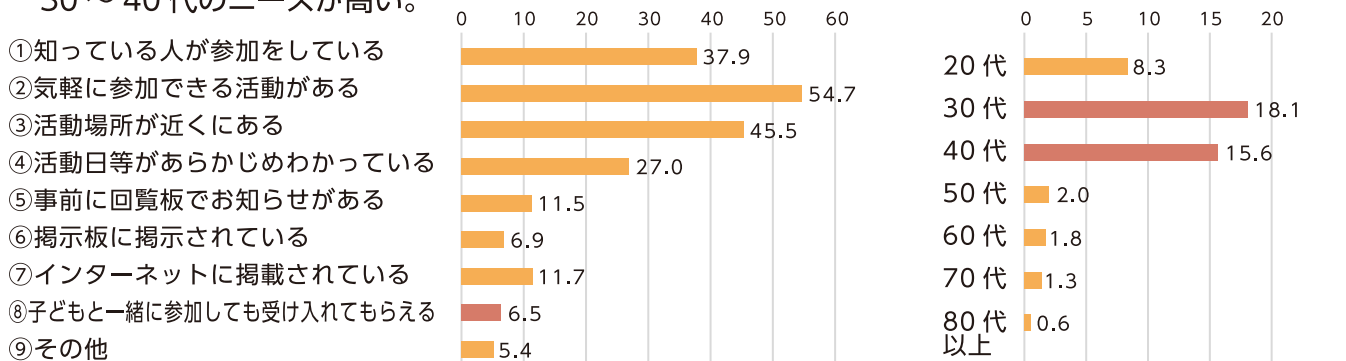
〈隣近所との付き合い (今後の意向)〉

・「防犯・防災・交通安全などの活動」では、参加したことがある約2割、今まで参加したことはないが今後参加したい約3割。



〈地域活動への今後の参加意向 (防災・防犯・交通安全) (%)〉

・どのような状況であれば参加しやすいかでは、「子どもと一緒に参加」は1割未満だが、30～40代のニーズが高い。

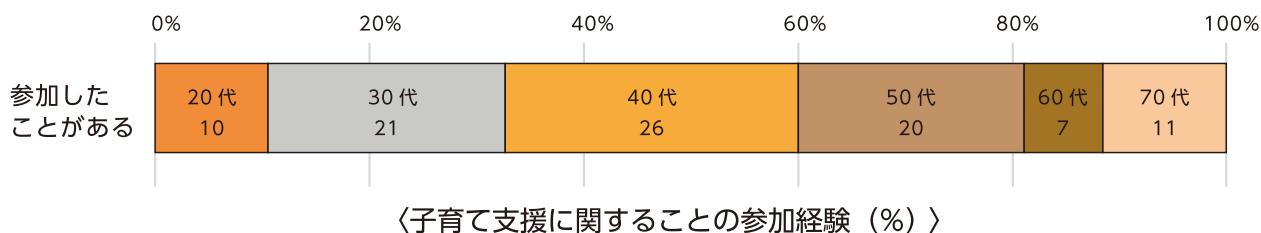


〈どのような状況であれば参加しやすいか (%)〉

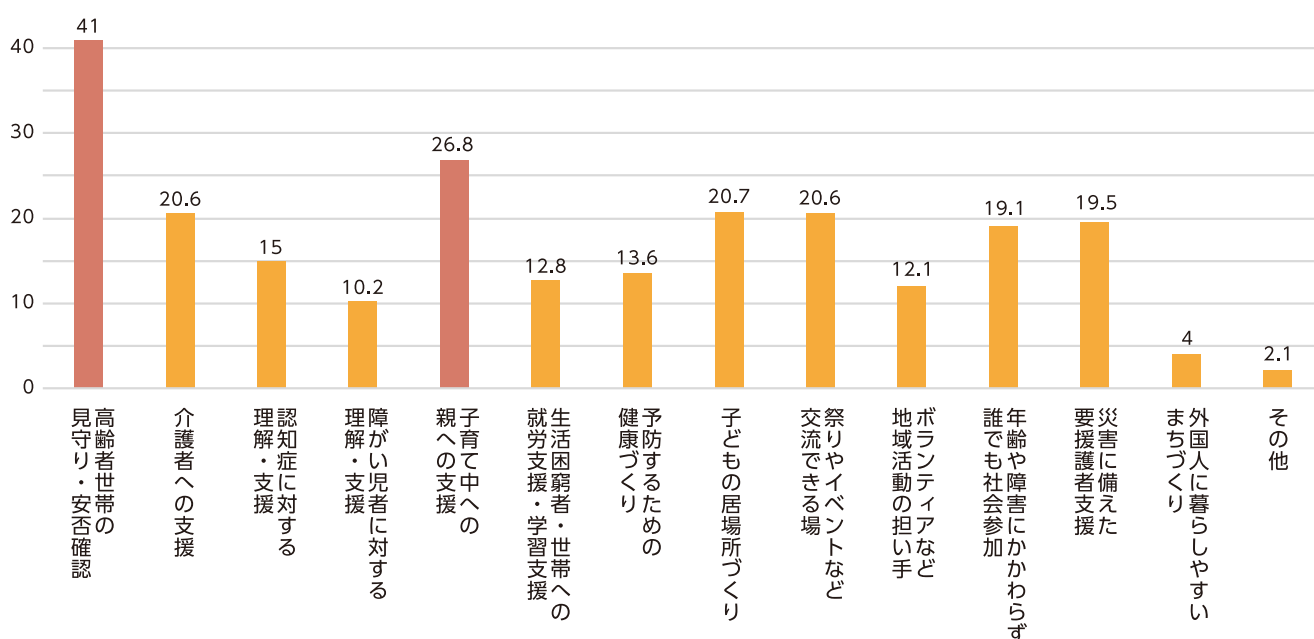
〈子どもと一緒に参加」の年代別意向〉



- ・「子育て支援に関することの参加経験」では、参加者の年齢で見ると、参加したことがある人の約6割が20～40代。

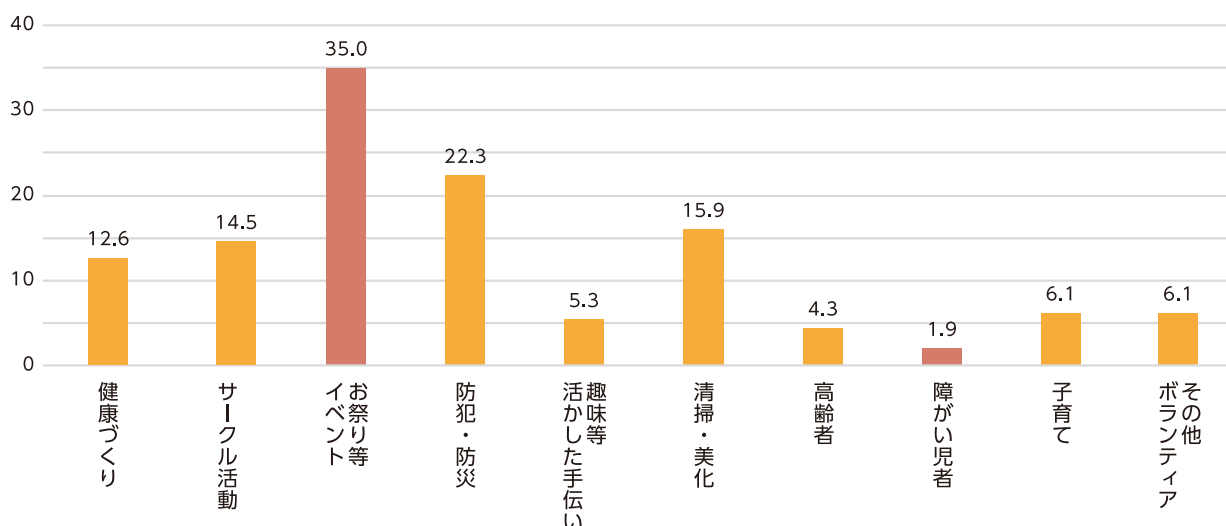


- ・住んでいる地域が住みやすくなるために特に重要な福祉保健の取組みでは、全世代では、「高齢者世帯の見守り・安否確認」が最も多いが、20～30代では「子育て中の支援」が最も多い。



〈住んでいる地域がもっと住みやすくなるために、特に重要な福祉保健の取組みは（％）〉

- ・地域活動の参加経験では、「お祭りや運動会などのイベント」が約4割で最も多く、「障がい児者に関すること」が2%で最も少ない。



〈地域活動の参加経験は（％）〉

### 3 第5期計画策定の経過

年度	月	区(全体)計画	地区別計画
令和6年度		<p>生活課題や地域の課題・ニーズの把握</p> <p>地域活動関係者アンケート</p> <p>第1回策定・推進会議</p> <p>第1回検討部会 子ども分野</p> <p>第2回検討部会 障害分野</p> <p>第3回検討部会 高齢分野</p> <p>第4回検討部会 分野横断 (生活困窮・防災)</p> <p>第5期計画で目指す姿や、そのために取り組む内容について検討</p> <p>第2回策定・推進会議</p>	<p>地区連絡会議</p> <p>地区別計画検討・策定の依頼</p> <p>各地区別計画推進委員会の開催</p>
		<p>第1回策定・推進会議</p> <p>区計画素案についての区民意見募集</p> <p>第2回策定・推進会議</p>	<p>各地区別計画推進委員会の開催</p>



## 検討部会の実施

分野ごとに活躍されている団体等や策定推進委員の協力を得て、全4回の検討部会を実施しました。区内の地域福祉保健活動団体や関係機関をメンバーとする検討部会を開催し、子ども、障害、高齢、分野横断（防災、生活困窮）をテーマとした意見交換を行いました。

また、検討部会を有益なものにするために事前に地域活動関係者にアンケート調査を行いました。「誰もが安心して健やかに暮らせるまち」につながる取組について幅広い団体からご意見をいただき、検討部会での共有や検討の際に活用しました。

- ・検討部会の形式：グループワーク
- ・議題 ①「誰もが安心して健やかに暮らせるまち」につながる取組  
② 取組の中で困難と感じていること

### 検討部会 委員名簿

#### 1回目：子ども分野

主任児童委員	新吉田あすなる地区 主任児童委員
子育て支援者	高田地区 子育て支援者
子ども若者支援団体交流会	大倉山ミエル
地域ケアプラザ	大豆戸地域ケアプラザ 地域交流コーディネーター
子育てサークル	ぞうさんの帽子（樽町地区）
小学校	北綱島小学校
保育園	港北保育園
中学生、大学生	ボラリーグ
親と子のつどいの広場	こんぺいとう
策定推進会議委員	

#### 2回目：障害分野

生活支援センター	港北区生活支援センター
訓練会	障がい児グループ支援ななつから…
港北区障害者地域作業所連絡会	ワークス太尾
あんしんキーパー	さぽーと・うみ
港北区社会福祉協議会セーフティネット分科会	白梅会
グループホーム	社会福祉法人 横浜共生会
地域包括支援センター	城郷小机地域ケアプラザ 主任介護支援専門員 日吉本町地域ケアプラザ 保健師
策定推進会議委員	

### 3回目：高齢分野

地域包括支援センター	下田地域ケアプラザ 社会福祉士
介護者のつどい	大豆戸地域ケアプラザ 介護者のつどい
在宅医療相談室	港北区在宅医療相談室
家事支援グループ	太尾ふれあいクラブ
認知症サポーターキャラバン	キャラバン・メイト（新羽地区）
介護支援専門員	サービス協会港北介護事務所
地域ケアプラザ	新羽地域ケアプラザ 生活支援コーディネーター
策定推進会議委員	

### 4回目：分野横断（生活困窮・防災）

子ども若者支援団体交流会	大倉山ミエル
生活支援センター	港北区生活支援センター
公共職業安定所	ジョブスポット港北
市民活動団体	バンブーまなび塾
基幹相談支援センター	しんよこはま地域活動ホーム
地域ケアプラザ	新羽地域ケアプラザ 生活支援コーディネーター
親と子のつどいの広場	こんぺいとう
策定推進会議委員	



## 検討部会の様子



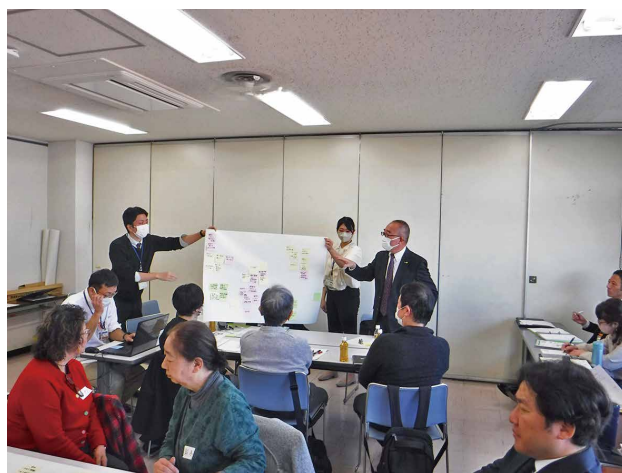
1 回目：子ども分野



2 回目：障害分野



3 回目：高齢分野



4 回目：分野横断  
(生活困窮・防災)



どの検討部会の意見交換においても、参加者の減少や担い手の不足、対象に応じた情報発信や場の提供について課題としてあげられました。

## 4 用語集

- ア** アドバンス・ケア・プランニング (ACP)      もしものときに、どのような医療やケアを望むのか、前もって考え、家族や信頼する人、医療・介護従事者たちと話し合い、共有することを「人生会議」(アドバンス・ケア・プランニング：略称 ACP) という。
- ア** あんしんセンター      市内に在住する、ご自分で金銭や大切な書類を管理することに不安のある高齢者や障害者が安心して生活できるよう、権利擁護に関わる相談や日常生活の支援を行う機関で、市内18区社会福祉協議会が運営している。  
事業内容：権利擁護事業(①相談②福祉サービス利用援助、定期訪問・金銭管理サービス③財産関係書類等預かりサービス)
- ア** あんしんノート      障害のある子どもや高齢者の方が、親や親族が亡くなった後を見据え、財産のことだけではなく、その人の特性や希望すること、関係機関のこと等についても書き残すことによって、日常生活を過ごしていく上で困らないようにするためのもの。
- イ** 意思決定支援      知的障害や精神障害等で意思決定に困難を抱える人が、日常生活や社会生活に関して自らの意思が反映された生活を送ることが可能となるように、本人の意思の確認や意思及び選好の推定、最後の手段としての最善の利益の検討のために事業者の職員が行う支援の行為及び仕組み。
- イ** 移動支援      外出が困難な障害者や高齢者に対して、通院等、社会生活において必要な外出や余暇活動等の社会参加のための移動を支援すること。
- イ** いわゆる 8050 問題      80代の親がひきこもり状態にある50代の子の生活を支え、親の介護の問題など課題が多様化・複雑化し、地域の中で孤立している状態にある世帯。背景には、ひきこもりの長期化・高齢化がある。
- エ** エンディングノート      認知症等で意思疎通ができなくなった時や亡くなった時のために自身の思いを書き留めておく「覚書」のこと。遺言のような法的な効力はない。
- エ** エンパワメント      個人や地域が持っている力を引き出し、自分らしく主体的に生活や活動ができるように支援する考え方。支援する側が一方的に助けるのではなく、本人や地域が自分で選択し、行動していく力を高めていくことを大切にする。
- カ** 買い物支援      外出が困難な障害者や高齢者等、日常的な買い物で困っている人へ商品の配達や出張サービス、買い物代行、移動販売の誘致を通じて支援すること。
- カ** 学校・地域コーディネーター      学校と地域が連携・協働するために、地域と学校をつなぐ役割を担うボランティアのこと。横浜市では平成19(2007)年度から「学校・地域」と呼び、平成29(2017)年度から社会教育法で規定された「地域学校協働活動推進員」として委嘱。
- カ** 関係機関・団体      この計画では、社会福祉法人、施設、地域子育て支援拠点、学校、障害児者団体、障害者地域活動ホーム、精神障害者地域活動ホーム、精神障害者生活支援センター、居宅介護支援事業者、医療機関、サービス事業者、企業、NPOなどを位置づけている。

キ	基幹相談支援センター	平成28年4月から、各区にある社会福祉法人型障害者地域活動ホームに設置された障害のある方やその家族等のための総合相談支援機関。基幹相談支援センターでは、区福祉保健センターや精神障害者生活支援センターと連携し、障害のある方やその家族等からの相談に応えるとともに、地域の方や関係機関等とも連携し、地域づくりに取り組んでいる。
キ	キャラバン・メイト	認知症に関する正しい理解の普及を目的として、地域や職場等における啓発活動や講座の実施等に関わる人材。 認知症の人や家族が安心して生活できる地域づくりを進めるため、その人らしさを尊重した関わり方や、見守りの大切さについて伝える役割を担う。
コ	国際交流ラウンジ	市内在住の外国人のための生活情報提供、相談を多言語で実施するとともに、日本語教室の開催、通訳ボランティアの派遣、日本人との交流活動を行っている。
サ	災害時要援護者	高齢者、障害者等、地震等の災害時に自力避難が困難な方のこと。
サ	在宅医療相談室	区民が住み慣れた地域で安心して在宅医療ができるよう、関係機関と連携し、医療・介護事業所のコーディネート、関係機関への調整・支援・情報提供を行う。
シ	自治会町内会	一定の地域で、地域の課題解決や住民相互の親睦を目的に自主的に組織された住民団体。住民ならだれでも加入でき、親睦のためのイベント、清掃等の環境整備、防災等に関すること等の様々な事業を行う。
シ	市民活動・生涯学習支援センター	地域課題の解決や魅力ある地域づくりを目指し、市民公益活動と生涯学習を支援する区域の中間支援組織。
シ	社会的孤立	家族や知人、職場や地域社会との関係が希薄で、他者との接触がほとんどないため、生活上の問題が生じたときに支援につながりづらい状態。
シ	社会福祉協議会	社会福祉法第109条に基づき、社会福祉の増進を図ることを目的に全国・都道府県・市区町村のそれぞれに組織されている。民間としての「自主性」と広く住民や社会福祉関係者に支えられる「公共性」という二つの側面を併せ持った組織であり、横浜市においては、①社会福祉法人として専任職員と事務局を持つ市社会福祉協議会及び18の区社会福祉協議会②住民主体の任意団体でおおむね地区連合町内会エリアで活動する地区社会福祉協議会がある。
シ	社会福祉法人	特別養護老人ホームの運営等、社会福祉事業を行うことを目的として社会福祉法の定めに基づき設立される公益法人の一種。
シ	住民主体	一人ひとりの住民が地域福祉保健（困りごとの解決やより良い暮らし）への関心を高めるとともに、自らができることを生かして主体的に関わったり、参加すること。
シ	食生活等改善推進員	各区で実施している食生活等改善推進員養成講座を受講した、食生活改善等の地域の健康づくりの活動を行うボランティア。
セ	生活課題	地域生活を送る上で、個人や世帯が抱える課題のこと。
セ	生活困窮者自立支援制度	就労の状況、心身の状況、地域社会との関係性その他の事情により、現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある方に対して、個々の状況に応じた包括的な支援を行い、自立の促進を図ることを目的とした制度。

セ 生活支援コーディネーター	高齢者一人ひとりが、できることを大切にしながら暮らし続けるために、高齢者の社会参加を進め、多様な主体が連携・協力する地域づくりを進めるコーディネーターのこと。横浜市では、第1層生活支援コーディネーターを18区の社会福祉協議会に、第2層生活支援コーディネーターを地域ケアプラザ等に配置し、地域のニーズに合わせて、高齢者に必要な生活支援の活動・サービスを創出・持続・発展させるための取組の支援、関係者間の情報共有、連携体制づくり等を行っている。
セ 性的少数者	性自認（自己の性別についての認識）や性的指向（恋愛感情や性的な関心がどの性別に向くか、向いていないか）のあり方が多数派とは異なる人のこと。「LGBT」は「レズビアン」、「ゲイ」、「バイセクシュアル」、「トランスジェンダー」の頭文字をとった言葉で、性的少数者の総称として使われている言葉の一つ。
セ 制度の狭間	課題があるにもかかわらず、どの制度、サービスの対象にもならない状態。
セ 成年後見制度利用促進基本計画	成年後見制度の利用の促進に関する法律に基づき、成年後見制度の利用促進に関する施策の総合的・計画的な推進を図るために策定する計画。市町村は国の計画を勘案して、市町村計画を策定するよう努めることとなっている。
セ 成年後見（制度）	認知症、知的障害、精神障害などの理由で自分ひとりで判断することが難しい方が安心して生活できるように保護し、法律的に支援する制度。成年後見人等は、本人の意思を尊重し、健康や生活状況に配慮しながら、本人に代わり財産管理や契約などの法律行為を行う。
セ 成年後見サポートネット	成年後見制度等に関して、法律上専門性の高い対応等について専門職から助言を得るために、各区単位で事例検討会や情報交換会等を実施し、区域の権利擁護団体との連携を図っている。
ソ ソーシャルキャピタル	社会や地域における人々の信頼関係や結びつきを表す概念。
チ 地域関係者・地域組織	この計画では、自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、委嘱委員、ボランティア、地域活動者などを位置づけている。
チ 地域ケアプラザ	高齢者、子ども、障害のある人など誰もが地域で安心して暮らせるよう、身近な福祉・保健の拠点として様々な取組を行っている、横浜市独自の施設。
チ 地域交流コーディネーター	地域ケアプラザに配置され、主に地域住民や団体とのネットワークづくり、地域活動の調整等を行っている。横浜市独自の仕組み。
チ 地域子育て支援拠点	就学前の子どもとその保護者が遊んだり、交流するスペースの提供、子育て相談、子育て情報の提供等を行う子育て支援の拠点。地域で子育て支援に関わる方のために研修会等も実施している。
チ 地域福祉	それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者がお互いに協力して地域社会の福祉課題に取り組む考え方。
チ 地域包括支援センター	高齢者の総合相談窓口として市町村が設置する機関。横浜市では、地域ケアプラザの中に包括支援センター機能を組み込んでいる。保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員を配置し、地域の高齢者や家族を支援するとともに、生活支援コーディネーターや地域交流コーディネーターやと連携し、地域づくりに取り組んでいる。
チ 地区社会福祉協議会（地区社協）	その地域に暮らす人たちが、自らの地域を良くするために様々な活動を行う任意の団体。
チ 地区別支援チーム	地区別計画の推進に向けて、区役所、区社協、地域ケアプラザ等で偏され地区ごとに設置するチーム。港北区ではサポートスタッフと呼ぶ。

チ	地区民生委員児童委員協議会（地区民児協）	民生委員同士の連携を図ると共に、様々な課題を抱える世帯への支援方法等についての検討を行う組織。おおむね連合自治会・町内会ごとに設置されている。
チ	地区連合町内会	自治会町内会が集まって構成され、主に自治会町内会相互の連絡調整や地域住民の福祉増進のために広域的な事業（例えば、地区での運動会や、災害を想定した防災訓練、青少年健全育成のための繁華街でのパトロールなど）を実施する組織。
チ	中核機関 （よこはま成年後見推進センター）	相談対応や専門職によるサポートのコーディネート等を行うとともに、各地域における連携ネットワークを形成・強化していくため、法律専門職団体、社会福祉専門職団体、医療・福祉の関係団体等をはじめとする関係者からなる協議会等の事務局機能を担う機関。
チ	チームオレンジ	認知症の人や家族の希望や願い、困りごとなどの声をもとに、その実現や解決に向けた取組を、認知症の人や家族とともに地域住民や団体、企業、関係機関等が連携して進める「本人支援」の活動。
ト	特定健診	40歳から74歳の被保険者を対象に医療保険者が行う健康診査。内臓脂肪の蓄積に起因する高血圧症、脂質異常症、糖尿病等の生活習慣病をみつけ、生活習慣病の改善、病気の予防につなげる。
ヒ	ひきこもり	様々な要因の結果として、社会への参加が狭まり、就学や就労など、自宅以外での生活の場が長期にわたって失われている状態のこと。
フ	福祉課題	地域や社会で、生活の質や安心を確保するために解決すべき問題やニーズ。
フ	福祉教育	子どもから大人まで全ての人を対象とし、学校や地域でのボランティア体験・交流・出前授業等を通じて、高齢・障害等の当事者理解や身近な地域の福祉課題の理解等を進める取組。
フ	フリースペース	この計画では、誰もが気軽に安心して集まり、相談や交流ができる場所を指す。
ホ	保健活動推進員	地域の健康づくりの推進役、行政の健康づくり施策のパートナー役として、地域で健康づくり活動を行っている。
ミ	民生委員・児童委員	民生委員法に基づき厚生労働大臣から委嘱された非常勤特別職の地方公務員。地域の身近な相談相手として、介護や子育て等の福祉に関する様々な相談に応じ、福祉サービス等の情報提供を行ったり、行政や関係機関を紹介する「つなぎ役」。
ヤ	ヤングケアラー	法令上の定義はないが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもとされる。
ヨ	要保護児童対策地域協議会	要保護児童等に関し、関係者間で情報交換と支援の協議を行う協議会。
ロ	老人クラブ （シニアクラブ、シルバークラブ）	地域を基盤とする高齢者の自主的な組織で、高齢者の生きがいづくり、健康づくり、仲間づくりに重要な役割を果たしている。

## 5 「ひっとプラン港北」策定・推進会議 委員名簿

### ● 「ひっとプラン港北」策定・推進会議

令和8年3月現在（五十音順 敬称略）

氏名	所属
あいざわ かず お 相沢 一夫	高田町連合町内会会長
座長 うつ み ひろし 内海 宏	(株) 地域計画研究所所長
おおもり みき お 大森 幹雄	港北区保健活動推進員会会長
すず き よしろう 鈴木 悦朗	港北区医師会会長
たかはし まさみつ 高橋 雅光	しんよこはま地域活動ホーム所長
た さか まさ お 田坂 昌穂	港北区老人クラブ連合会会長
はら み き 原 美紀	認定NPO法人びーのびーの事務局長
まえ だ かずたか 前田 和隆	下田地域ケアプラザ所長
むら の あけ み 村野 明美	港北区ボランティア連絡会会長
もり た たえ こ 森田 妙子	港北区民生委員児童委員協議会副会長
やまぐち えつ こ 山口 悦子	港北区社会福祉協議会セーフティネット分科会会長
やまもと よしのり 山本 善憲	港北区社会福祉協議会地区社会福祉協議会分科会会長



## 発行・問合せ

令和8年4月発行

港北区役所 福祉保健課 事業企画担当  
TEL 045-540-2360 FAX 045-540-2368

社会福祉法人 横浜市港北区社会福祉協議会  
TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561